



Water as a Weapon

ISRAEL'S DESTRUCTION AND DEPRIVATION
OF WATER AND SANITATION IN GAZA



©Mohammed Dabb

訳者から

本報告書は、国境なき医師団 (MSF) が 2026 年 4 月 28 日に発表した「Water as a Weapon: Israel' s Destruction and Deprivation of Water and Sanitation in Gaza (武器としての水 : イスラエルがガザで行う水・衛生の破壊と剥奪)」(英文のオリジナルのダウンロードは以下から : <https://www.msf.org/report-water-weapon-gaza>) の全訳です。本翻訳は、MSF から許可を得ていますが、MSF の公式な翻訳ではなく、作成者による私訳です。また、著作権は MSF にあります。正確な内容については、原文をご参照ください。

2023 年 10 月以降、イスラエル当局がパレスチナ人に対して武器として水を利用し、集団的処罰の一環として、ガザ地区の人々から組織的に水を奪っている状況が続いています。本報告書は、イスラエル当局の意図的な水の供給拒否により、水・衛生施設・衛生行動 (WASH : water, sanitation and hygiene) にアクセスする権利を奪われ、非人道的な生活環境を強いられたガザの人々の苦闘が記録されています。この「水の武器化」は、民間人の直接的な殺害、医療施設の破壊、されに大規模な避難を余儀なくさせる住宅の破壊と並行して実施されており、ガザの住民 210 万人の健康、尊厳、安全に深刻な影響を及ぼしています。

WASH において、衛生施設 (sanitation) とは、単にトイレなどの施設のことを指しているのではなく、汚物を除去・処理・処分し、それにより「公衆の健康を保全すること」も含まれます。また、衛生行動 (hygiene) は「病気を防ぐために自分と自分の周りを清潔に保つ実施・慣習」であり、体やモノを清潔に保つ行動 (手洗い、歯磨き、入浴など) を意味しています。

日本人が、殆ど不自由を感じずに使っている「水」は、実は貴重な資源です。ユニセフによれば、2024 年時点で、世界人口 82 億人中、21 億人が安全に管理された飲み水を利用できず、このうち 1 億 600 万人は、湖や河川、用水路などの未処理の地表水を使用しています。また、人間が 1 日に必要とする水分量は 1~2 L 程度で、世界保健機関 (WHO) の基準では、飲料・調理だけでなく、手洗いや簡単な身体の洗浄、食器の洗浄など最低限の公衆衛生を保つために必要な生活用水として、1 人 1 日 15~20 L が必要とされています。本報告書に書かれた 2026 年 1 月時点における MSF の水生産・配給状況から計算すると、MSF はガザにおいて、1 人 1 日飲用水として約 6 L、生活用水として約 9 L、計 15 L を供給しています。この困難な状況の中で、この頑張りには、本当にもの凄い努力だと思いました。ちなみに、国土交通省のデータでは、日本人の 1 人 1 日平均の 2022 年度の生活用水使用量は、282 L で、これは現時点のガザの人々が使える水の量の約 20 倍です。

(参考資料)

https://wash.africa.kyoto-u.ac.jp/blog/posts-ja/wash-overview-ja/20241204_92922/

https://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_act01_03_water.html

<https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/content/001902538.pdf>

武器としての水

イスラエルがガザで行う水・衛生の破壊と剥奪

目次

| | |
|--|-----------|
| 要約 | 1 |
| はじめに | 5 |
| 調査方法 | 7 |
| 水、衛生施設、衛生行動へのアクセス妨害が、 ガザのパレスチナ人にとっていかに過酷な生活環境をもたらしているか | 8 |
| 1. 水へのアクセスの欠如 | 8 |
| 需要を満たす十分な水がない | 8 |
| 利用可能な水へのアクセスを巡る住民の苦闘 | 9 |
| 2. 清潔な衛生施設環境の欠如 | 11 |
| トイレの利用 | 11 |
| 固形廃棄物 | 11 |
| 3. 適切な衛生行動へのアクセスの欠如 | 12 |
| 4. ガザのパレスチナ人が水、衛生施設、衛生行動へのアクセス剥奪によって どのような影響を受けているか | 13 |
| 健康への影響 | 13 |
| 尊厳への影響 | 16 |
| 安全への影響 | 17 |
| イスラエル当局は水、衛生施設、衛生行動へのアクセスをいかに武器として利用してきたか | 19 |
| 1. インフラおよび主要施設の破壊と損壊 | 19 |
| ガザの水源 | 19 |
| 2年間に渡る破壊 | 20 |
| 人道支援団体への依存を余儀なくされる | 21 |
| MSFの管理する水関連施設への攻撃 | 22 |
| 2. 人道支援と住民へのアクセス阻害：地域の軍事化と強制移住 | 23 |
| WASH関係者へのアクセス阻害 | 23 |
| 住民へのアクセス阻害 | 27 |
| 3. WASHサプライチェーンの妨害 | 31 |
| エネルギーへのアクセス妨害 | 31 |
| ガザ地区へのWASH物資の搬入妨害 | 32 |
| 緊急の要請 | 38 |





要約

本報告書は、2023年10月以来、ガザ地区の住民が水・衛生施設・衛生行動（WASH）にアクセスする権利が、イスラエル当局によっていかに武器として利用され、著しく損なわれてきたかを記録したものである。2024年1月～2025年12月に収集された国境なき医師団（MSF）の活動データおよび医学的証拠、ならびに2025年後半に収集された経験者からの直接的な証言に基づき、WASHサービスの剥奪が偶発的なものではなく、イスラエル当局による一連の政策と行為の結果であると結論づけている。これらの措置は、ガザの住民210万人に破壊的で非人道的な生活環境をもたらしており、彼らの健康、尊厳、安全に深刻な影響を及ぼしている。

ガザのパレスチナ人は、人為的に引き起こされた水不足に直面している。MSFがガザ最大の非政府系給水事業者として、2026年1月時点で1日あたり470万リットル以上の水を供給・生産しているにもかかわらず、需要は供給をはるかに上回っている。2025年5月～11月、MSFによる給水の5回に1回は、まだ給水待ちの人々がいるにもかかわらず水が足りなくなっていた。多くの家庭では、調理や洗濯よりも飲用を優先するため、個人の衛生用の水に限られ、人道支援の供給が途絶えた際には、安全でない水源や塩分を含む水源に頼らざるを得ない状況にある。2023年10月～2026年1月にかけて、民間業者による水の価格は最大500%も上昇し、生計手段を失った大多数の家庭にとって、水は手の届かないものとなっている。

ガザの住民はまた、本来なら防ぐことができたはずの、悲惨な衛生環境にも耐え忍んでいる。衛生システムは事実上崩壊している。避難民キャンプでは、各家庭がテント内にその場しのぎのトイレを掘るか、あるいは大勢で1つのトイレを共有せざるを得ない。トイレはすぐに満杯になり、多くの場合、井戸の近傍にあるため地下水を汚染している。豪雨により、こうした粗末な施設は浸水し、排泄物や糞便細菌が拡散している。ごみ収集システムの停止や燃料不足により、生活圏には固形廃棄物が堆積している。石鹸、消毒剤、おむつ、生理用品などの衛生用品は入手不能か不足し、それらの物資は依然として手が届かないほど高価である。

ガザの住民から WASH サービスへのアクセスを奪うことは、彼らの健康、尊厳、安全を直接的に損なうことになる

生活環境の急激な悪化により、MSF のスタッフは、2023 年 10 月以前よりも、水・衛生施設・衛生行動の欠如による健康上の問題を遙かに多く扱っている。MSF の調査では、2025 年 5 月～8 月にインタビューした人のほぼ 4 人に 1 人が、その前の月に下痢を患っていた。MSF のプライマリ・ヘルスケアセンターにおいて、下痢に苦しむ患者の大多数が 15 歳未満の子供である。下痢は妊婦にも深刻な影響を及ぼし、妊娠を危険な状態にする。清潔な水や石鹼の不足に関連するこれら疾患は、患者を栄養失調のリスクに晒す要因ともなっている。

水の不足と不十分な衛生行動に加え、過密状態のテントや仮設住居での生活により、皮膚疾患が増大している。これらは 2025 年の MSF プライマリ・ヘルスケア診療の約 18% を占めた。疥癬やシラミは家族全員に広がり、傷口が化膿したり、時には虫が寄生することもあり、MSF で一旦治療を受けても、患者たちは不衛生な生活環境に戻らざるを得ず、再び医療を必要とする事態に陥っている。

水と衛生施設へのアクセスの欠如は、人々のメンタルヘルスにも深刻な影響を及ぼしている。MSF のメンタルヘルス専門家は、十分な水や衛生行動に必要な品物を確保するための、日々の苦闘に関連した高レベルの精神的苦痛を観察しており、特に子供たちは重い責任とストレスを背負っている。

人々は尊厳を損なうような状況で生活しており、シャワーを浴びることが可能だとしても - シャワーを浴びる際のプライバシーは殆どなく、加えて過密状態の仮設トイレを見知らぬ人々と共有せざるを得ない。適切な衛生行動ができないことは苦痛の原因となり、人々の尊厳を損なわせてしまっている。特に女性、高齢者、障害を持つ人々にとって、その影響は深刻なものとなっている。

多大なニーズ、限られた水供給、配水システムの破壊により、住民は水を受け取るために集まることを余儀なくされ、その結果、水の供給時に安全上のリスクが増加している。多くの家族は、生き延びるために必要な多くの課題に圧倒されており、子供たちを水汲みに送りだすしか選択肢がない。水汲みに行く際に、一部の子供たちは恐怖を感じたり、迷子になったり、怪我をしたりしている。命を落としてしまった子供もいる。



本報告書は、WASH へのアクセスを武器として利用し、ガザの全住民を危険に晒している実態を明らかにしている。その主な手段は、インフラの破壊と攻撃、強制移住や移動制限によるガザ地区内における人道支援の妨害、生活必需品の供給に対する組織的な遮断や遅延、の3つである。

イスラエル軍の作戦は、広範囲なインフラの破壊である。WASH インフラの 90%近くが損壊または破壊され、海水淡水化プラント、井戸、配管、下水システムは使用不能または利用不能となっている。MSF は、明確に自身の所有と識別できる給水車や井戸への発砲や破壊の事例を複数記録している。これら多くは、住民への給水活動中に発生しており、パレスチナ人や支援者に危険や負傷をもたらし、設備を破損させている。

イスラエル当局は、ガザ地区内での生活に不可欠なサービスへのアクセスを厳しく制限する条件を課している。パレスチナ人に対する立ち退き命令や、イスラエル軍によるガザの一部地域への立ち入り禁止措置は、時にはガザ地区の 80%以上に及んだ。この報告書作成時点で、パレスチナ人は同地域の 58%にアクセスできない状況にある。イスラエル当局は、MSF に繰り返し給水活動の中断を強要してきた。MSF は重要な浄水設備を失い、飲料水生産ユニットの移転を余儀なくされており、数十万人が利用するための水供給能力が減少している。

一方、イスラエル当局はガザへの生活必需品の搬入を著しく妨害している。2023 年 10 月以降、水の浄化や給水に不可欠な電力と燃料が遮断されたり、厳しく制限されたりしている。海水淡水化装置、ポンプ、塩素やその他の水処理用化学薬品、貯水タンク、防虫剤、簡易トイレなど、重要な物資の搬入許可申請は却下されたり、回答がないまま放置されている。承認された場合でも、輸送物は検問所で差し止められ、命を救うべき機材が数ヶ月間足止めされたままとなっている。イスラエル当局は支援物資を水道の蛇口のように扱い、ガザ地区への物資搬入を制限するために、蛇口を閉めたり少しだけ開けたりしている。2026 年 1 月 1 日以降、イスラエル当局の承認決定システムを通じたあらゆる物資搬入に対する MSF の申請は全て却下されている。こうした物資の供給遮断は人々の水へのアクセスを著しく阻害し、破損したインフラの復旧を妨げている。

イスラエル当局によるこれらの政策と措置は、市民の生存に不可欠な支援や物資を奪うことで、ガザの住民に対する集団的処罰をもたらしている。イスラエルは、占領国として、国際人道法に基づき、住民の基本的ニーズを確保し、水道や衛生施設・システムなどの民間インフラ保全の義務を負う。しかし、本報告書では、民間インフラの広範な破壊、ガザ地区内の WASH 関係者に課されたアクセス・移動の制限、繰り返される強制的な住民移住、WASH 物資の遮断が、人間の尊厳と生存に相容れない状況を生み出していると指摘する。



イスラエル当局および第3国が負う法的義務に基づき、生存に不可欠で、人間の尊厳の根底をなす水と衛生施設へのアクセスを確保するため、緊急の措置が求められている

MSF はイスラエル当局に対し、ガザ地区へのおよび地区内での移動制限を直ちに解除すること、WASH 物資の搬入妨害をやめること、民間インフラおよびサービスを保護対象として地位を尊重すること、民間人および人道支援従事者の保護を堅持すること、そしてパレスチナ人の強制移住を停止することを要請する。

MSF は国連（UN）加盟国に対し、国際法を遵守し、利用可能なあらゆる経済的、安全保障的、法的手段を駆使して、ガザの人々が水、衛生施設、衛生行動へのアクセスを回復・保護されることを確実にすること、確立された UN や国際非政府組織（INGO）の枠組みを通じて、ガザ全域において原則に基づいた人道的な WASH 支援を迅速かつ支障なく拡大すること、差し迫った WASH のニーズと長期的な復興・再建の両方に向けた柔軟かつ持続的な資金提供を増大することを要請する。

清潔な水、安全な衛生施設、基本的な衛生行動へのアクセスは、生存に不可欠である。これら生活基盤へのアクセスの継続的拒否は、人々に本来なら防げたはずの苦痛をもたらしている。これは、イスラエルによるパレスチナ人民の占領、植民地化、包囲、強制移住、ヨルダン川西岸地区における民族浄化、ガザ住民に対するジェノサイドの記録という歴史的背景の中で生じている。ガザ住民が水、衛生施設、衛生行動を確保し、パレスチナ人がこれ以上非人間的な扱いを受けることのないよう、即時的かつ持続的な行動が求められる。





【私たちに水が必要なんです。全く理不尽な話だ。生きるために不可欠なものが欲しいと、世界にアピールしなければならぬなんて】

2025年11月、アリはガザ地区のデイル・アル＝バラフにある避難民キャンプの、乱立するテントの中に立っていた。占領地に住む210万人のパレスチナ人と同様、彼もこの2年間、イスラエル当局によるジェノサイド作戦を生き延びようと奮闘してきた。数十年に渡る弾圧と紛争、そして2007年にイスラエルが課した封鎖を経て、2023年10月7日、ハマスとその他のパレスチナ武装組織がイスラエルに大規模攻撃をし、イスラエル側の情報では1,200人が死亡、250人以上が人質となった¹。これに対し、イスラエルはガザへの大規模攻撃を開始。それ以来、イスラエル当局は、国際社会の不作為によって助長されたジェノサイドを犯し続けている。

ガザ保健省²によると、2023年10月7日～2026年2月23日現在までに、少なくとも72,073人のパレスチナ人が攻撃により直接的に死亡し、171,756人が負傷した。これに加え、未集計の死者、行方不明者、医療やその他の必須サービスの混乱から間接的に生じた関連死が存在する。さらに、イスラエル当局はガザ住民に別の形態の暴力を用いている。すなわち、住宅や水道システムなどの民間インフラの広範な破壊、強制移住、生活必需品の搬入に対する厳格かつ持続的制限を通じて、意図的かつ組織的に生活を破壊する状況を創出している。これにより、住民の医療や食料へのアクセスは著しく阻害されている。また、安全な飲料水や衛生施設へのアクセスも妨げられており、これには安全な下水管理、尊厳ある廃棄物処理、さらには最も基本的なタイプのトイレの利用さえも含まれる。人道支援分野において、これらは「WASH³」と総称されている。

¹ According to Israeli media citing official sources, and republished by UN OCHA's Reported Impact Snapshot of 21 January 2026, the 07 October 2023 and immediate aftermath caused over 1,200 fatalities and around 5,400 injuries; and 471 Israeli soldiers were killed and 2,995 injured since the start of the ground operation. See United Nations Office for the Coordination of Humanitarian Affairs, Reported impact snapshot, Gaza Strip (21 January 2026), <https://www.ochaopt.org/content/reported-impact-snapshot-gaza-strip-21-january-2026>. This was corroborated by Amnesty International, note 70, <https://www.amnesty.org/en/documents/mde15/0282/2025/en/>.

² Health Cluster's Health Dashboard taking figures from the Ministry of Health, <https://app.powerbi.com/view?r=eyJrIjoiODAxNTYzMDYtMjQ3YS00OTMzLWtkxMWQOTU1NWWEwMzE5NTMwIiwidCI6ImY2MTBjMG13LWJkMjQ0NGIzOS04MTBiLTNkYzI4MGFmYjU5MCI6ImMiOj99>. Those figures have been found to be under representative of the real death toll. A study of traumatic injury mortality published in the Lancet, covering the period of 7 October 2023 to 30 June 2024, estimated Palestinian MoH under-reported mortality by 41% (Jamaluddine, Zeina et al., "Traumatic injury mortality in the Gaza Strip from Oct 7, 2023, to June 30, 2024: a capture-recapture analysis", The Lancet, Volume 405, Issue 10477, 469 - 477, 8 February 2025, [https://www.thelancet.com/journals/lancet/article/PIIS0140-6736\(24\)02678-3/fulltext](https://www.thelancet.com/journals/lancet/article/PIIS0140-6736(24)02678-3/fulltext)). A more recent study estimated 75,200 violent deaths between 7 October 2023 and 5 January 2025, representing approximately 3.4% of the Gaza Strip's pre-conflict population. Women, children and older people comprised 56.2% of violent deaths. It also estimates non-violent deaths, with 8,540 excess deaths above pre-conflict projections. The MoH figure for this period is 34.7% below the study's estimate. (Michael Spagat et al., "Violent and non-violent death tolls for the Gaza conflict: new primary evidence from a population-representative field survey", 18 February 2026, [https://www.thelancet.com/journals/langlo/article/PIIS2214-109X\(25\)00522-4/fulltext](https://www.thelancet.com/journals/langlo/article/PIIS2214-109X(25)00522-4/fulltext)) An investigation also found that the deaths included an extremely high civilian toll: 83% as of May 2025, according to a joint investigation by the Guardian, the Israeli-Palestinian publication +972 Magazine and the Hebrew-language outlet Local Call (<https://www.theguardian.com/world/ng-interactive/2025/aug/21/revealed-israeli-militarys-own-data-indicates-civilian-death-rate-of-83-in-gaza-war>).

³ Water, Sanitation and Hygiene (水、衛生施設、衛生行動)

MSF は 1988 年からパレスチナで活動している。ガザでは、2023 年末以降、活動を拡大し、住民に対して医療、メンタルヘルス支援、水、トイレを提供している。

私たちは、WASH へのアクセスが、ガザ住民に対する集団的処罰の手段となっている実態を目の当たりにしてきた。早くも 2023 年 10 月、イスラエル当局は声明を発表し、国際人道法における集団的処罰の禁止に違反し、ガザのパレスチナ人から基本サービスへのアクセスを奪う意向を明らかにした。2023 年 10 月 9 日、当時のイスラエル国防相ヨアヴ・ガラントはガザ地区の「完全な包囲」を宣言し、「電気も、食料も、水も、燃料もなく、全てが遮断される」と述べた⁴。イスラエル国防軍 (IDF) のガッサン・アリアン少将 (領土内政府活動調整局 (COGAT) 局長) は次のように述べた。「人間以下の存在 (Human animals) は、そのように扱われるべきだ。[ガザには] 電気も水もなく、破壊だけが残るだろう。お前たちが地獄を望んだなら、地獄を味わわせてやる」⁵。

WASH へのアクセス遮断は、単発の措置ではなく、体系的かつ累積的な拒否と遅延という繰り返されるパターンの一部であり、これに加え、

- 圧倒的な数の民間人の直接的殺害
- 医療施設の破壊および人的・物的資源の喪失により、さらなる死者と病人が生じていること、並びに
- 住居の破壊により、避難を余儀なくされ、深刻な精神的被害を受けていること

と合わせて、ガザのパレスチナ住民に、破壊的かつ非人道的な生活環境を意図的に強いる行為を構成している。

この長期の生命維持に不可欠なインフラへの遮断は、軍事戦略での消耗戦による死を意味する。すなわち、生存のための物質的前提条件が徐々に解体されていくことであり、国際司法裁判所は、飲料水、食料、電力、必須サービスの剥奪から生じる、回復不能な損害の現実的かつ差し迫ったリスクを認定した際、[暗黙のうちに] 認めており、国連と全面的に協力し、それらの供給が阻害されないよう確保するようイスラエルに命じることで、この問題に対処しようとした⁶。

本報告書は、過去 2 年間にガザ住民が WASH に関して経験してきた、過酷な制限の概要を提示する。水、衛生施設、衛生行動サービスへのアクセスにおいて人々が直面する困難は、広範囲のインフラ破壊、イスラエルが WASH 関係者のガザ地区立ち入り・移動に課した制限、強制的な住民移住の繰り返し、物資の供給遮断によって生じている。これにより、ガザの住民は人為的に誘導された水不足に直面し、完全に防止できたはずの、極悪な衛生施設および衛生行動環境に耐えざるを得ず、彼らの健康、尊厳、安全を直接的に損なっている。

このような深刻な剥奪は、イスラエルによる占領、植民地化、包囲、パレスチナ人の強制移住という文脈の中で生じている。MSF は何十年にも渡り、イスラエル政府の政策により引き起こされたパレスチナ人の苦しみ、死、耐え難い生活状況を目の当たりにしてきた。

⁴ Emanuel Fabian, “Defense minister announces ‘complete siege’ of Gaza: No power, food or fuel”, The Times of Israel, 9 October 2023, https://www.timesofisrael.com/liveblog_entry/defense-minister-announces-complete-siege-of-gaza-no-power-food-or-fuel/

⁵ Gianluca Pacchiani, “COGAT chief addresses Gazans: ‘You wanted hell, you will get hell’ ”, The Times of Israel, 10 October 2023, https://www.timesofisrael.com/liveblog_entry/cogat-chief-addresses-gazans-you-wanted-hell-you-will-get-hell/

⁶ Application of the Convention on the Prevention and Punishment of the Crime of Genocide in the Gaza Strip (South Africa v. Israel), ICJ, Order of 28 March 2024, <https://www.icj-cij.org/node/203847>. Operative Clause ordering Israel to “take all necessary and effective measures to ensure, without delay, in full co-operation with the United Nations, the unhindered provision at scale (...) of urgently needed basic services and humanitarian assistance, including food, water, electricity, fuel, shelter, clothing, hygiene and sanitation requirements, as well as medical supplies and medical care to Palestinians throughout Gaza.”

イスラエル当局および第3国の法的義務に基づき、生存に不可欠であり、人間の尊厳の根本的な側面である水と衛生施設へのアクセスを人々が確保できるよう、緊急の措置が求められている。

- MSF はイスラエル当局に対し直ちに、ガザ地区内および同地区への人道支援アクセスの制限を停止し、WASH 物資の搬入および配布への妨害を止めるよう要請する。水、衛生施設、衛生行動のためのインフラ・サービス、ならびにその他の民間施設は保護対象としての地位を尊重し、WASH やその他の人道支援サービスを利用しようとする民間人、それらを提供する人道支援要員を保護することを堅持し、パレスチナ人の強制移住を停止すること。
- MSF は、他の全ての UN 加盟国に対し、国際法を守る義務を履行し、イスラエルがガザのパレスチナ人に対して水を武器として使用することを確実に停止させるために、必要なあらゆる経済的、安全保障的、法的措置を講じ、確立された国連 (UN) および国際非政府組織 (INGO) の枠組みを通してガザ全域で原則に基づいた WASH 人道支援の迅速かつ支障のない拡大を要求し、差し迫った WASH のニーズと長期的な復興・再建の両方に対する柔軟かつ持続的な資金提供を拡大することを要請する。



調査方法

本報告書は、2024年1月～2025年12月に、ハーン・ユニス県内のプライマリ・ヘルスケア・センターで MSF が収集した医療データ、MSF の物資供給データ、MSF の治安事案データ、ならびに 2025 年の MSF の水生産・供給拠点（場所および量）に関するデータに基づく。

また、2025年9月～12月に、ガザ地区内で医療、水・衛生施設、物資供給、運営の主要部門に従事する MSF の主要な国内・国際スタッフへのインタビュー結果も活用した。

本報告書はさらに、MSF および MSF が支援する医療センターならびにその周辺のテント村において、患者と介護者 41 名を対象に実施した 15 回のインタビューとフォーカスグループ・ディスカッションにも基づいている。これらは 2025 年終盤の数ヶ月間にガザ地区全域で実施された。

水、衛生施設、衛生行動へのアクセス妨害が、ガザのパレスチナ人にとっていかに過酷な生活環境をもたらしているか

イスラエル当局による WASH インフラの破壊や攻撃、支援関係者に対するアクセスの妨害、住民の強制移住、WASH のための物資の供給遮断の結果、ガザ住民は最も基本的なサービスを利用できず、非人道的な状況下で生活しており、人々の健康、尊厳、安全に明らかな悪い影響を与えている。2024 年 12 月に公表した MSF の報告書『死の罠の中の生活 (Life in a Death Trap)』では、ガザ住民が WASH を利用できないことによる壊滅的な影響をすでに記録しているが、1 年以上が経過した今も人々の苦しみは続いている。

1. 水へのアクセスの欠如

需要を満たす十分な水がない

ガザのパレスチナ人は過去 2 年間、十分な水を手に入れるために苦闘してきた。2025 年 8 月、国連 (UN) は、世帯の半数が最低限の基準を満たすのに十分な飲料水にアクセスできておらず、その 4 分の 1 以上が生活用水も十分に確保できていないことを明らかにした。これは衛生行動に直接的な影響を及ぼしている⁷。2025 年 5 月～11 月では、MSF による給水の 21%が、給水車が空になった後も、次の給水を期待して人々が待ち続けているという形で終了していた。単純に、人々に届く水の量よりも、ニーズの方が上回っていたのだ。

サベルは、デイル・アル＝バラフにある MSF の病院に入院中の 28 歳の患者だ。彼のテントにイスラエルのロケット弾が直撃し、娘は死亡し、自身も両足の機能を失った。彼は、水を手に入れるために直面した苦難をこう振り返った。



【給水車がキャンプに来た。ロケット弾に直撃される前、私は水を汲みに行っていた。キャンプには水が配給されたが、十分ではなかった。私たちは小さな容器に水を汲み、次の給水車を待った。キャンプ全体と近隣のテントの需要を満たすには、少なくとも 1 日 4 台の給水車が必要だった。水が足りなくなると、飲用が絶対的な優先事項となる。最も重要だったのは娘たちの分だった。彼女たちには水が必要だったからだ。子供たちに水を飲ませるために、食事を我慢する家族もいた。】

人々は、手持ちの物資を節約するために日々の活動を制限している。当院の患者たちによると、衛生行動が真っ先に犠牲になることが多いという。イスラエル軍の狙撃兵と特定された人物に撃た

れて入院したジャードは、MSF に、次のように語った。

【食器を洗うのを止め、料理に使う水を制限し、衣類やテント内の日用品の洗濯も止めています。】

⁷ WASH Cluster Palestine. Joint WASH Assessment Round 3, August 2025, <https://drive.google.com/file/d/1108jWxGoWdusAp5u-Mi-7ipWG8nGCsp0/view>, p. 21



利用可能な水へのアクセスを巡る住民の苦闘

水を手に入れることは、日常生活において極めて重要かつ時間を要する作業となっている。人々は、国際非政府組織（NGO）による給水車、人道支援セクターの支援を受ける自治体、あるいは井戸から水を汲み上げて脱塩・処理を行う民間企業から水を調達している。イスラエル治安部隊によるいわゆる「避難」命令や治安の悪化により、給水車の供給が不足したり到着しなかったりする場合、住民は残っている損壊した水道管や井戸に頼らざるを得ないが、これらは海水や下水で汚染されている可能性がある。水の確保には時間と労力が必要であり、これらが十分な水へのアクセスを妨げる大きな障壁となっている。

1. **第1の課題は給水拠点の設置場所である。**避難所やキャンプに到着した給水車が、地域社会の貯水タンクに水を補給することもある。しかしながら、利用可能な貯水タンクは余りにも少なく、この方法には組織的な調整が必要だが、人々はコミュニティごと避難していないため、多くの場合それが不可能である。また、イスラエルによる規制のため、配水網を構築するのに十分な配管も確保できていない。そのため、WASH関係者は、単に十分なスペースがあるという理由で、路上に給水所を設置するが、それらの給水拠点は必ずしも避難民が生活している場所の近くにあるわけではない。

2. **第2の課題は水にアクセスできる回数が少ないことである。**多くの人々にとって、給水車が通りかかり、容器に水を満たす機会を逃さないことは極めて重要である。朝、人々を目覚めさせるのは往々にしてこの給水車の音であり、それがその日のあるいはその週の生活リズムを左右する。

3. **第3の課題は時間である。**給水所まで行き、給水車を待ち、水容器を満たし、テントや避難所まで歩いて戻るには時間がかかる。これには15分～1時間が必要で、多くの場合30分程度、時にはそれより遙かに長い時間がかかることもある⁸。水に辿り着くのに時間がかかるほど、人々が十分な頻度で水を汲みに行き、必要量を確保できる可能性は低くなる。給水拠点までの距離、給水車を待つ時間（順番を逃さないよう人々は早めに到着しようとする）、さらに、多くの場合混雑した環境下で、容器への給水にかかる時間は、水へのアクセスにさらに長い時間を費やす要因となる。

⁸ According to the WHO/UNICEF's JMP Water Ladder, if safe drinking water is not available on premises and when needed, it is not a safely managed drinking water service. If a round trip to collect water takes 30 minutes or less, it is classified as a basic drinking water service; if it takes over 30 minutes, it is categorised as a limited service. (See <https://washdata.org/topics/drinking-water>). According to the WASH Cluster, in August 2025, 28% of households relied on a limited service, with a trip taking over 30 minutes (<https://drive.google.com/file/d/1108jWxGoWdusAp5u-Mi-7ipWG8nGCsp0/view>, p. 28).

4. 第4の困難は、重い容器をテントや避難所まで運ぶことである。これは肉体的負担が大きく、特に怪我や病気、障害を持つ人々、幼い子供や虚弱な人、高齢者にとってはなおさらだ。家族は健康な男性に水を汲みに行かせることを好むことが多いが、こうした男性たちは既に生計を立てたり、食料や薪を調達したりする役割を担っていることが多い。そのため、より脆弱な人々が代わりに水汲みに行かざるを得なくなったり、少量の水でやりくりせざるを得なくなる。

5. 十分量の清潔な水を手に入る上でのもう一つの障壁は、貯蔵能力である。ジェリカン（20L 前後の金属製容器）や貯水タンクが不足しているため、住民は古い水や油のボトル、あるいは手に入るあらゆる容器を再利用している。これにより、一度に汲み出せる量や、水を手に入る間隔が制限されてしまう。給水車が毎日到達できていない地域は数多い。例えば、2025年11月、ガザ市のMSFの患者たちは、自分たちの居住地全体がたった1つの井戸に依存しているため、各家庭が水を利用できるのは8~10日に1回、30分間だけだと説明した。また、9月~10月のイスラエル軍の地上侵攻と、WASH関係者の離脱や活動停止により、水へのアクセスは週に1~2回に制限された。

6. 水を買って求めなければならない人々もいるが、その費用は手が出ないほど高騰している。2023年10月以前は、人々は民間業者に25シェケルを支払い、自宅の1,000リットルの飲料水タンクを満たしてもらっていたが、現在は少なくとも150シェケル（48米ドルまたは41ユーロ）[2026年1月末現在]を支払わなければならない。これは500%の値上げであり、多くの人々が生計手段や貯蓄を失っているため、到底支払える額ではない。35歳のアフメドは、人々が必死に店を取り囲もうとした際にトラックが店に衝突し、脚に怪我を負った。

【「飲料水がいつでも手に入るとは限らない」とアフメドは言う。「時には買わなければならないこともある。子供を入浴させたり、食器を洗ったり、洗濯に十分な水があるかどうか、いつも苦労している。日々の生活に必要なものを確保しなければならないので、もどかしい思いをしている。[怪我のせいで]もう働けないから、貯金をはたいて買わなければならないんだ。】



2. 清潔な衛生施設環境の欠如

MSF は、イスラエルによるインフラ破壊、衛生施設の封鎖、大規模な強制移住が、いかに悲惨な衛生状況を招いているかを目の当たりにしている。トイレや下水システムは殆ど残っておらず、固形廃棄物は蓄積している。

トイレの利用

2025 年 10 月末、ハーン・ユーニスのアル・カララにある避難民キャンプの診療所に、女性たちが集まり、2023 年 10 月 7 日以降、トイレに行くという基本的な行為さえもどのように変化したかについて話し合った。

- 「私たちのテントには 7 人が住んでいて、トイレはその中にあります」と、ホロウドは説明した。「砂に穴を掘りました。トイレがあるのは普通のことだし、清潔なものでなければなりません。今は、地面に穴を掘っただけで、消毒液もありません。その穴は井戸のすぐ横、私たちのマットレスのすぐそばにあるんです…だから私たちはいつも MSF に来るんです。子供たちはいつも病気になってしまうんです。」
- アシールは続けた。「テントに住んでいる場合、自分の家族用トイレがあればラッキーです。そうでなければ、トイレに行くには長い行列です。それも健康な人の話です。高齢者はどうするのでしょうか。」
- 「冬が近づいています…」とシリーンは強調した。「私はキャンプに住んでおり、テントの中にトイレがありますが、そこに行くには長い距離を歩かなければなりません。年老いた私にとって、そこへ辿り着くのは大変です。雨が降れば、さらに大変になります。屋根がないから、水浸しになるのです。」

人々は、地面に掘った穴を仮設のトイレとして利用し、手に入るものや購入できるもので少しでも快適にしようと工夫している。例えば、しゃがむための石板や木の板、あるいは稀に、座るための椅子や椅子などの構造物などだ。そして、プライバシーを保つために、ビニールシートや毛布のようなもので周囲を囲んでいる。人道支援団体によってトイレが提供されている場合もあるが、その数は必要量を遙かに下回る。アパートや共同避難所を確保できなかった家族は、テントの中や周辺にトイレを設置するか、近隣住民と一つを共有している。彼らは、悪臭や不快感、絶え間ない維持管理に耐えながら生活せざるを得ない。一つの穴がいっぱいになると、また別の穴を掘らなければならない。

降雨により、仮設の衛生施設のインフラが損なわれている

ガザでは冬になると雨が降る。適切な避難施設や衛生施設が整っておらず、汚水溜めが溢れ出してしまふ。2025 年 11 月、3 年連続の豪雨は避難民のテントを浸水させ、砂を泥に変え、トイレの細菌が住宅や井戸へ拡散した。殆どの医療施設が破壊され、立ち入ることができなくなっているため、MSF はテント内に仮設施設を設置したが、これらも浸水してしまった。これには、デイル・アル＝パラフの野戦病院、アル・アッタルとアル・マワシ（ハーン・ユーニス県）のプライマリ・ヘルスケア・センター、そしてナセル病院の小児病棟の増設部分も含まれる。もし排水が可能な機能的インフラが整っていれば、このような事態は決して起こらなかったはずだ。

固形廃棄物

インフラの破壊、稼働可能なトラックや燃料の不足、新たな地域への避難、廃棄物処理場所へのアクセス喪失により、固形廃棄物が蓄積し、**害虫やネズミ**が集まり、繁殖するが、それらの駆除用製品は入手不可能である。人々は**廃棄物を漁り**、細菌や危険な物質に晒されるリスクを冒しても、食料や燃料を求める。この問題は、人道支援 NGO だけでは解決できないほど深刻であり、地域の廃棄物収集・管理能力の強化が必要とされるが、稼働可能な機器、予備部品、燃料の不足や供給の遮断により、その実現は困難な状況にある。



3. 適切な衛生行動へのアクセスの欠如

廢墟のガザで、住民は「普通の生活」という幻想を保つために精一杯努力している - 身だしなみを整え、衣服を洗い、生活空間をできる限り清潔に保つのだ。同僚の友人が冗談めかして、「掃除や片付けはもう終わった？そうしとけば、次にミサイルが飛んできた時、『きちんとした主婦』だと解るから」と言った。このブラックユーモアは、こうした状況下で並外れた困難に直面しながらも、ガザの女性たちが持ち続ける強靱さを表す。

イスラエルによる封鎖により、市場への流通や人道支援物資としての供給が著しく制限され、ガザでは石鹼は贅沢品となっている。3月2日～5月18日の期間、イスラエル当局は石鹼、シャンプー、洗剤など一切の物資のガザへの持ち込みを許可せず、完全封鎖下となった。石鹼は入手不可能となり、人々は自家製の代用品や歯磨き粉などの他の製品に頼るか、殆どの場合は何も使わずに済ませるしかなかった。その後、一部の衛生用品の持ち込みは許可されたが、供給頻度は低く、必要量を賄うには不十分だった。人道支援団体も不足分を配布できず、一般市場での価格は急騰した。「ある時期には、1個40シェケル [12ドル]に達した」と、35歳のMSFの患者アフメドは2025年11月に語った。戦争の最悪期に比べれば価格は下がったが、石鹼は依然として多くの人々にとって手の届かない。「石鹼はない。水だけで体を洗っている」と、2025年11月、MSFの患者の26歳のファイサルは語った。「お金もないし、仕事もないからだ。石鹼1個が今は10シェケル [3ドル] もする - 戦争前は1シェケル [0.32ドル] だったのに。」石鹼不足に加え、水不足も重なり、清潔を保つことは困難を極める。「水が手に入り易い時は、1日おきにシャワーを浴びます。手に入りにくい時は、週に1回です」と、ファイサルは嘆いた。

ガザでは2年以上に渡り、その他の衛生用品も手に入らない状況にある。おむつ等の生活必需品の不足は、日常の些細な作業さえも苦痛を伴う大仕事にさせ、女性が担うことの多い介護の負担をさらに悪化させる。50代の同僚ラナは、高齢の家族を介護しているが、入手できるものが非常に少ないことに衝撃を受けていた。「子供や障害のある大人にはおむつが必要なんです。」毎日おむつを自作しなければならないのは、心身ともに疲れる作業である。MSFが支援する施設に子供が入院している34歳のアマルも、自分の赤ちゃんに同じことをしなければならなかった。「以前は、子供用のオムツの製作は自分のシャツやビニール袋を使っていました。それで子供たちに発疹ができてしまうんです。赤ちゃん用品は凄く高いんです - オムツは400シェケル (123米ドル) もします。」2025年12月4日現在、粉ミルクの価格は約40～60シェケル (12～19米ドル) に、おむつは20～30シェケル (6～9米ドル) に下がった。改善されたが、物資供給の制限がなければ、このようなことは必要なかったはずだ。

十分な量の清潔な水の入手に苦労している上に、水の清潔な保存も困難となっている。戦争前は、人々は適切な貯水タンクや衛生用品を利用でき、定期的な容器交換の手段もあった。しかし現在は、ジェリカンや再利用の容器に頼って水を貯蔵・運搬している。その多くは古くて傷んでおり、飲料水や家庭用、さらにはディーゼル燃料や化学薬品用として繰り返し再利用されている。容器はテント外に放置されることが多く、熱によりプラスチックが劣化し、有害な化学物質が水に溶出され、日光への曝露が問題をさらに悪化させている。また、水を清潔に保つためには残留塩素を含む必要があるが、塩素との長時間の接触は使い捨てプラスチックを劣化させ、それら容器に保存された水を飲用に不適なものにしてしまう。一方で、水や容器の殺菌に不可欠な塩素は、イスラエル当局の差し止めに頻繁にあるため、入手困難な状況にある。塩素や洗浄資材がなければ、容器や食器、調理器具を適切に消毒することができない。一部の家族は石鹼や十分な水がないため、砂を使って調理器具を洗っている。





4. ガザのパレスチナ人が水、衛生施設、衛生行動へのアクセス剥奪によってどのような影響を受けているか 健康への影響

MSFは十分量の清潔な水不足や劣悪な衛生施設や衛生行動が、ガザ住民の健康に悪影響を及ぼす実態を見てきた。2024年～2025年、MSFのプライマリ・ヘルスケア診療所で最も多く診察されたのは、呼吸器感染症、皮膚疾患、下痢性疾患である。生活環境の急激な悪化から、2023年以前と比べてこのような健康問題を多く治療している。

2025年5月～8月に、MSFスタッフおよびその家族1,073世帯を対象に実施された調査によると、インタビューの1ヶ月前に、調査対象者のほぼ4人に1人（23%）が胃腸疾患に罹患していた。2025年1月末～3月末に実施した調査では、これらの疾患に罹患した割合は遙かに低かった。この期間は1月～3月の停戦期間と重なり、その間は衛生用品を含む物資のガザへの搬入をイスラエルが許可していた。皮膚疾患に罹患した世帯の割合は、同期間では3%であったが、2025年5月～8月では8～9%に増加していた。上気道感染症は、2025年5月～8月に世帯の21～22%に、2025年1月末～3月には27%に影響を及ぼした。

下痢性疾患は特に水と石鹼の不足に関連する。人々は汚染水を飲用・使用せざるを得ず、適切な製品を使わずに、手や所持品の洗浄頻度が低下するためである。MSF運営のアル・アッタルおよびアル・マワシのプライマリ・ヘルスケアセンターでは、2025年の受診患者の8%以上が下痢やその他の消化器疾患であった。MSFは、2025年9月～10月のガザ市の人々が退去を命じられ、既に過密状態にあるハーン・ユニスやデイル・アル＝バラフの非公式居住区へ避難させられた際など、避難先が狭い地域に集中した状況下での多くの患者の発生を確認している。2025年10月だけでも、MSFはハーン・ユニス県南部に位置するこれら2つの診療所だけで、無血性下痢症1,077例、血性下痢症44例を治療した。これはガザ地区全体の症例数に比べればごく一部に過ぎない。強制移住により水の需要が増加したが、給水車は需要に追いつかず、人々は飲用に不適な他の水源を利用せざるを得なかった。「誰もが病気になりますよ。特に子供たちは」と、井戸水を飲んで下痢になった患者のオマルは語った。

衛生施設と衛生行動も、病気の蔓延における重要な要素である。「例えば、私は医療廃棄物等のゴミを漁る人々を目にしました。彼らは針刺し事故や皮膚感染症のリスクに晒されています」と、MSFのプライマリ・ヘルスケア担当医療マネージャーのモメン氏は述べた。「また、廃棄物を漁る際に直接接触したり、トイレ後に石鹼で手を洗わずに、その手で食事をとることで間接的に細菌に接触し、人間の排泄物に汚染されることもあります。これが下痢や胃腸炎を引き起こす原因となるのです。」ガザがまだコレラの流行に見舞われていない唯一の理由は、その細菌がガザ地区に持ち込まれていないからに他ならない。もしこの細菌がガザに侵入すれば、全ての保健専門家が口を揃えて言うように、ガザ地区の崩壊した水道・衛生システムの下では、この致死率の高い病気が極めて急速に蔓延し、医療体制は対応に苦慮することになると考えられ、大惨事となるだろう。

子供や、妊娠中・授乳中の女性は、下痢の影響に対して特に脆弱である。水、衛生行動、と栄養失調は相互に関連する問題であり、MSFは過去2年間、ガザでこれを直接目にしてきた。私たちの2つの主要なプライマリ・ヘルスケア病院では、2025年の下痢症患者の60%以上が15歳未満の子供である。妊婦たちは、清潔な水と衛生行動の欠如から、急性の水様性下痢を患ってMSFを訪れる。下痢はこうした患者を栄養失調に陥りやすくし、そして栄養失調により下痢が容易に引き起こされるようになる。その結果生じる体重減少は妊娠に悪影響を及ぼし、早産に繋がってしまう可能性がある。その後、女性は再び同じ環境に戻るため、再び病気になってしまう。脱水による栄養喪失により、十分な母乳をあげることができなくなり、赤ちゃんが栄養失調に陥ってしまうのである。粉ミルクもまた、適切な衛生環境を必要とする。清潔な調乳用の水や、哺乳瓶を殺菌する沸騰水が必要であり、そのためには火を燃やすための薪を探さなければならない。



MSFが確認している皮膚疾患には、感染した傷、とびひ（伝染性膿痂疹：特に衛生行動へのアクセスが限られ、人が密集した環境下で感染力が極めて高い細菌感染症）、疥癬、シラミなどが含まれる。2025年、ハーン・ユニスにおけるMSFのプライマリ・ヘルスケア相談の約18%は皮膚疾患が原因であった。イスラエルによるジェノサイド攻撃から生じた環境により、これらの皮膚疾患は2023年10月以前よりも遙かに一般的になり、特に子供たちがその影響を受け易くなっている。傷や皮膚疾患は、清潔を保つ手段が不足しているため容易に感染が引き起こされる。清潔な水、石鹸、患部を消毒・

覆うための基本的な物資やガーゼは、入手できないか、経済的に手の届かないものとなっている。医療施設でもガーゼのような物資へのアクセスは、依然として困難な状況にある。

生活環境の悪化により、衛生状態はさらに悪化している。特にテント内や、暑さ、寒さ、湿気に晒された過密空間ではその傾向が顕著となる。「子供たちは、靴が高価すぎて持っていないことが多く、砂や土の上で遊んでいます」と、MSFの医師は説明した。



【人々は地面に張ったテントで生活しているため、傷口に土が入り込みます。時には、傷口の中に虫や幼虫が見つかることもあります。また、環境や全般的な衛生行動の悪化から、人々は発疹を生じることもあります。さらに、疥癬やシラミは非常に急速に感染します - シラミ治療薬の最後の1箱は、たった3日で使い切ったほどです！私たちは患者に消毒や治療を行います、彼らはテントに戻ると、また同じ症状で私たちの元に戻ってきてしまいます。】

冬の気温も衛生行動に影響する。人々は寒さを避けるため入浴や衣類・シーツの洗濯を控える傾向にあるからだ。

2024 年末に実施された性と生殖に関する健康の調査で、MSF は、**帝王切開で出産した女性**から、感染症、創傷の炎症、治癒の遅れといった問題が報告されていることを確認した。これらは特に、清潔な水の不足や衛生用品が高額なため、衛生行動を維持する能力が制限されていることに起因する。

ガザのパレスチナ人に課せられた生活環境もまた、MSF が治療する**呼吸器感染症**の多さに関与し、2025 年にハン・ユーニスのプライマリ・ヘルスケア病院を訪れた患者の約 17%が、この疾患を理由とした。適切な衛生行動手段が整わない中での極度の密集状態での生活は、ウイルスの急速な拡散を招き、調理や暖房のために焚かれる火の煙が呼吸器系を刺激してしまう。煙は健康にとって特に深刻な問題となり得る。調理用ガスがなく、燃料も不足しているため、人々は経済的に余裕がある場合には木材を燃やすが、中には廃棄物を燃やす人さえいる。

ガザにおける水、衛生施設、衛生行動の欠如は、**メンタルヘルス**にも深刻な影響を及ぼしている。避難民キャンプで家族のテントが直撃を受け、10 歳の娘を亡くしたサベルは、娘が幼いながらも、常に水のことを気にしていたと振り返る。

【給水車がやってくると、彼女は容器を持って水を汲みに行き、私にこう言ったものです。「給水車が来たよ、水を汲もう」と。彼女は塩水さえも汲もうと考えていました。普通なら、子供はおもちゃや遊びのことを考えるものなのに。でも彼女は水のことをを心配していたのです。】

30 代の MSF スタッフ、ディナはこう打ち明けた。

【私と家族は 12 回も避難を余儀なくされ、2 か月近くも体を洗うための水にアクセスできませんでした。飲料水も、最低限の生活を送るための水も足りず、まともなシャワーなど夢のまた夢です。皮膚感染症や疥癬、シラミに悩まされ、精神的な打撃も甚大です。】

彼女の言葉は、MSF のメンタルヘルスチームの証言とも一致する。同チームは、最低限の WASH 環境が確保されていないことに関連して、深刻な精神的苦痛 - さらに自殺念慮さえも - が見られると指摘する。



尊厳への影響

ガザの人々と水や衛生について話す際、「尊厳」という概念が話題によく上る。家での生活から一転し、劣悪な環境下で何千人もの避難民とテントや避難所に住まざるおえなくなった衝撃は、人々の心身の健康を蝕んでいる。

プライバシーは主要な懸念事項である。現在、仮設のテント村で暮らす22歳のビサンは、「ビニールシートでは体を完全に隠せず、女性たちは仮設のシャワーを使うことに不安を感じている」と説明した。MSFが医療支援をしているキャンプで、ある男性は「女性がこのような生活を送るのは安全ではありません。男性と隔離できる場所も、脱衣所もなく、プライバシーもなく、トイレも尊厳を保てるようなものではありません」と語った。

個人の衛生管理が十分でないと、特に社会的な場面で、人々が尊厳感を損なうことになる。MSFでは、他人の目を気にして、疥癬やシラミ、皮膚感染症の治療を遅らせてしまった患者もいた。

トイレに行くという単純な行為さえも苦痛を伴う。MSFの患者たちは、集団避難所では共同トイレを1時間以上待たなければならないことや、見知らぬ人と仮設トイレを共有しなければならないことが非常に不快で、キャンプ内のトイレの周りに列ができ、人々が苛立っている様子を見て、ストレスを感じていると語っている。



高齢者や障害を持つ人々、さらに移動に制限のある怪我をしたMSFの患者たちにとって、状況はさらに深刻となっている。多くの人が1人でトイレを利用できていない。視覚障害者のハムザは次のように説明した。

「戦争前も、私たち[障害者]は苦しんでいました。テントでの生活は、さらなる苦しみをもたらします。移動が困難な人々にとって、全てが障害となります。地面には穴やゴミ、汚水があり、特に視覚障害者の場合、先へ進むこともできません。私たちは常に他人の助けを必要としています - 水の入ったジェリカンを運ぶにも…そして、障害者用のトイレもないのです。それらは苦しみを10倍に増幅させます。」

写真のイスラム氏、26歳は、テントへの攻撃で両足を失って以来、家族のために水を汲みに行けなくなったとMSFに説明した。また、家族のテントにある仮設トイレが使えず、別の住む場所を探さなければならないという。

女性の尊厳を傷つけるもの：生理および産後の衛生管理

生理中／後のシャワーは困難なため、一部の女性は、イスラエル軍が海への立ち入りを禁止し、頻繁に発砲しているにもかかわらず、海で体を洗うことを余儀なくされる。ラナのように、体を洗うことを諦めざるを得ない女性もいる。「私たちの宗教では、生理後にシャワーを浴びなければなりません。飲み水や生活必需品さえ不足しているのに、どうやってシャワーを浴びればよいのでしょうか？避難生活を送る家族と共に、50日間も衛生管理のための水にアクセスできませんでした。」

生理用ナプキンの入手は、日常的な話題となっている。イスラエル当局による援助物資や民間トラックへの規制により、生理用ナプキンの入手は困難から不可能の間を行き来している。現在は地元の市場で比較的入手しやすいが、多くの家庭にとって価格は高すぎる。人道支援団体による配布が行われることもありますが、寄付される量はあまりにも限られている。2025年後半、多くの女性がMSFに対し、手に入る布を何度も使い回さざるを得ないと語った。適切なケアを受けられないため、会陰部や尿路の感染症のリスクが高まっており、中には塩と水を使って治療を試みる人もいる。キャンプの女性代表であるレイチェルは、十分な生理用ナプキンやシャワーがないため、「臭いがひどくなり、周りに座っている人たちが耐えられなくなる」と説明した（2025年11月）。

出産後の女性の尊厳も損なわれている。MSFの同僚は、授乳のプライベートな空間がなく、テント内でシャワーを浴びることもできないため、出産後に病院を退院することを拒む女性たちがいたことを回想した。ガザの女性たちが今耐えている屈辱のレベルは、ほんの数年前までは考えられないことだったが、今やパレスチナ人女性たちにとって日常的な侮辱となっている。民間インフラや人道支援物資は保護されるべきであり、住民を傷つけるための武器として利用されるべきではない。

安全面への影響

2年以上も人々が直面してきた水へのアクセス制限により、大半の人々はトラックから水を得るため歩いて移動せざるを得なくなっている。需要が高まる一方で水の供給は限られており、さらに配水システムの破壊により、人々は水の確保に集合せざるをえない状況にあり、給水拠点では感情が高ぶり、時には争い事が生ずる。こうしたリスクは、水の供給量を増やし、コミュニティ用水タンクを増設し（これにより、人々が水を求めて急いだり長距離移動する必要がなくなる）、水道インフラの修復により軽減されるはずだが、これら全てが、援助物資の搬入制限によって阻まれている。

これにより、特に障害や怪我を抱える人々、高齢者、女性、子供たちに安全上のリスクが生じている。彼らは、威嚇や身体的暴力から身を守る社会的余裕や身体的能力が乏しいからだ。女性たちはMSFに、妊娠中であることや不安を感じるため水を汲みに行けないと語っているが、夫が殺害されたり負傷したりしたため、やむを得ず行くしかないという者もいる。多くの人々は、他に頼れる人がおらず、子供を水汲みに送らざるを得ないと説明した。MSFの調査によると、2025年5月～11月に、給水活動の60%は、水を求めに訪れた子供、女性、男性の数がほぼ同数であり、26%は男性と子供が混在し、男性が過半数を占めたのは僅か13%だった。

子供たちが水を汲みに行く際に直面する危険

- **恐怖と威嚇**：12歳の少女はMSFに対し、給水車からホースを掴んでジェリカンに水を入れようとする、年配の男性たちが彼女を怒鳴りつけると説明した。彼女と15歳の姉は、父親が殺害されたため、水を汲みに行く役割を任されている。
- **道に迷ってしまう**：居住地域の広範な破壊や避難により、子供たちは周囲の環境を認識できず、家族のもとへ戻る道を見つけられなくなることがある。「私たちは一晩中、彼らを探し回っています」と、MSFの病院でインタビューに応じた46歳のワファは語った。
- **身体的損傷**：一部の子供たちはMSFに対し、重いジェリカンを運ぶことで背中や首に負担を感じていると語った。また、他の子供たちは衣類が破れたり、物資配給の場で怪我をしたと話した。



さらに、ガザでは民間人や水道などの民間施設も攻撃の対象となっている。2025年8月、MSFによる給水活動中に、少女が肋骨を撃たれ、男性が手を撃たれる事件が発生した。ガザ市にあるMSFが支援する小児病棟で、ハナンは孫の話を語るうちに涙を流した。

【それは [2025年] 7月、ヌセイラットでのことでした。彼は飲み水を汲みに行きました。他の子供たちと一緒に列に並んでいたところ、[イスラエル軍]に殺されてしまいました。彼は10歳でした。他にも一緒に亡くなった人々がいました。ニュースでも報じられました。その埋め合わせとして、彼ら[イスラエル軍]は謝罪し、「間違いだった」と言いました。謝罪で、彼を生き返らせることはできません。水を汲むことが危険なはずがありません。】

確かに、水を汲むことが危険であってはならない。住民は、清潔な水、トイレ、石鹼、生理用ナプキンを剥奪されてはならない。人々が病気になったり、尊厳を奪われたと感じたり、基本的なニーズが脅かされることで危険に晒されたりしてはならない。国際人道法の下、占領国としてのイスラエルの法的義務に従えば、民間人が安全に十分な水や衛生施設を利用できない状況を創出したり維持したりすることは禁じられている。

2年以上に渡り、MSFはガザのパレスチナ人が水、衛生施設、衛生行動へのアクセスを剥奪されることで生じる、悲惨で破壊的な結果を目撃してきた。またMSFはこの権利の剥奪が、WASHインフラを破壊・損壊し、人道支援団体の支援能力を著しく阻害し、多くのパレスチナ人を強制移住させ、救命物資の搬入を阻止してきたイスラエル当局・軍によって、直接的かつ組織的に引き起こされている様子も目撃してきた。



イスラエル当局は水、衛生施設、衛生行動へのアクセスをいかに武器として利用してきたか

1. インフラおよび重要施設の破壊と損壊

イスラエル軍の作戦により、生存に不可欠な民間施設である水や衛生施設インフラの大部分が破壊されたり、利用不能になったりしている。MSF が所有し、明確に識別可能な給水車や井戸も銃撃を受け、人々の安全を脅かすとともに、私たちの給水能力も制限している。このような行為は、ガザの全住民を危険に晒している。

ガザの水源

ガザ地区には、河川や湖といった天然の淡水源は存在しない。利用可能なのは、井戸を掘ることで得られる地下水と海水のみである。

- **海水**は、飲用にも家庭用にも適していない。また、イスラエル軍による破壊で下水処理施設が稼働停止に追い込まれたため、排水による汚染もますます深刻化している。塩水を飲用可能にするには、逆浸透（RO）プロセスによる脱塩処理が必要である。海水の脱塩処理は、地方自治体が管理する3つの専門プラントの何れかで行わなければならない。これらのプラントには特定の設備が必要だが、その供給は妨げられている。北部の脱塩プラントはイスラエル軍によって破壊された。
- **井戸水**は、塩分濃度が高いか汚染されている可能性が高く、そのまま飲むことはできず、家庭用としても適さない。そのため、水を汲み上げて処理した後に、一般的に家庭用（掃除、入浴）や飲用、調理に用いられる。2023年10月以前は、多くの小規模なROプラントや処理施設が稼働して水を脱塩し、安全に飲用できていた。

イスラエルの国営企業メコロット（Mekorot）は、ガザへ水を供給する3本の主要な送水管⁹を保有する。これらは頻りに遮断され、復旧までに長い時間を要している。

2023年10月以前は、飲料水や生活用水は地下水道網を通じて供給され、民間企業のトラックが各家庭の飲料水タンクに水を補給していた。同様に、下水を含む排水も地下水道網により流され、適切な施設で処理されていた。

2023年10月以前の主な水源（2026年3月初旬時点の稼働状況）



STLV（Short Term Low Volume）：UNICEF や EU などが支援する海水淡水化プラント

⁹ 2025年8月以降、アラブ首長国連邦が資金を提供するパイプラインも、エジプトからガザ地区の南部に水を供給している。

2 年間に渡る破壊

ガザに対するイスラエルのジェノサイド攻撃は、水および衛生施設インフラに**広範囲かつ深刻な被害**をもたらした。世界銀行、欧州連合および UN によると、WASH セクターの有する資産の 89%が破壊または損壊している **10**。

井戸や海水淡水化施設を含む**水の供給・処理ネットワーク**の大部分が、破壊されたり、利用不能である。多くの配水網は破壊また損壊が甚大で、その結果生じる水漏れから使用不能状態である。また、損壊箇所から未処理の下水が浸入し、そこに汲み上げられた水を汚染している。このため、ガザの広範囲が給水車に依存する事態となっている。水道網の損傷箇所の中には、依然としてイスラエル軍が支配する地域にあるため修復が許可されず、修復可能な箇所であっても、イスラエル軍から立ち入り許可が下りるまでに数週間から数ヶ月を要する場合がある。水の塩分濃度の上昇と汚染は、深刻な問題となっている。地下水の過剰な汲み上げは、最も近い水源である海水の浸入を引き起こし、汲み上げられた水の塩分濃度が過度に高くなっている。特に中央部や海岸に近い地域ではこの傾向が顕著であり、皮肉なことに、これらの地域こそが現在、最も多くの住民が避難を余儀なくされている場所である。**衛生施設**システムが事実上崩壊したため、仮設トイレからも糞便を含む人間の排泄物が地下水に浸透し、この地域の井戸水は飲用に適さなくなっている。下水インフラの大部分が機能しておらず、現在では汚水がそのまま路上に滲み出し、未処理のまま海へと流れ込んでいる状態である。

ガザの水生産および修理能力は著しく損なわれている。戦争前、ガザには水タンクの製造や RO システムに必要な部品の組み立てが可能で、十分に発達した産業があった。しかし、水道システム用部品を保管していた多くの民間企業の倉庫が爆撃を受け、修理資材や交換用部品の供給が激減した。自治体にとっては、上下水道ネットワークの維持管理や再建に必要な最も重要な機械や物資の殆どが破壊された。ユニセフは 2025 年 6 月、公的機関および NGO が運営する 196 か所の海水淡水化プラントのうち、60%以上が損傷していると報告している **11**。

MSF によれば、被害の多くは、井戸、水道管、プラントを含む地域全体に対する**広範囲かつ無差別な爆撃**に起因している。MSF の水インフラもまた、直接的な標的とされている。



10 World Bank, European Union and United Nations. Initial Rapid Damage and Needs Assessment (IRDNA), February 2025, <https://thedocs.worldbank.org/en/doc/133c3304e29086819c1119fe8e85366b-0280012025/original/Gaza-RDNA-final-med.pdf>, p. 37.

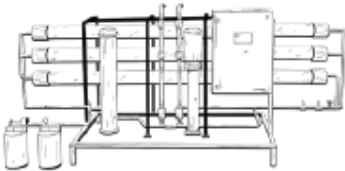
11 WASH Cluster Palestine. Desalinated Drinking Water Production in Gaza Strip and the Impact of the Ongoing Conflict, June 2025, https://drive.google.com/file/d/1mSr2fZ561MfXuudpDuDa_lZ48rmaIzv0/view?usp=sharing

人道支援団体への依存を余儀なくされている

水道・衛生施設インフラを含む民間インフラは、国際人道法によって保護されているが、ガザではこれが尊重されていない。イスラエル軍による主要な水道・衛生施設インフラ、および設備の広範な破壊により、MSFは可能な限り給水規模を拡大し続けることを余儀なくされている。MSFの取り組みは、ガザの210万人の人々を今も支援し続けている地方自治体や人道支援団体の活動と連携している。これらの人々の生活、健康、そして尊厳は、この重要なインフラの喪失と直接結びついている。

MSFは、ガザ地区において地方自治体に次ぐ第2位の飲料水生産者であり、非政府組織としては最大の生産者である。2026年1月現在、極めて厳しい状況下にもかかわらず段階的な改善を重ね、MSFはガザで1日あたり470万リットル以上の水を生産・配給し、39万人以上（ガザ地区住民の6人に1人以上）の最低限のニーズを満たすのに十分な水を供給している¹²。

2026年1月時点におけるガザでのMSFによる水の生産・配給状況



- 脱塩および浄化処理により、1日あたり130万リットル飲料水を生産しており、これは22万人以上分の基本需要に相当する¹³。MSFは「逆浸透膜装置（RO）」と呼ばれる脱塩装置を使用している。大型の新規装置の輸入が阻止されているため、その大半は、ガザに既にあった古い装置や破損した装置から回収した部品と新しい部品を組み合わせることで即席で製作したものである。
- 1日あたり190万リットル以上の飲料水と140万リットル以上の生活用水（非飲用）を毎日配給しており、これは飲用水として32万5,000人分、生活用水として16万3,000人分の最低必要量に相当する。MSFはトラックを用いて飲用水を配布し、生活用水についてはパートナー団体の掘削井戸を支援している。
- 50カ所の掘削井戸を稼働させるため、週に約1,800リットルの燃料を配給している。

¹² The estimated number of people whose basic needs would be covered by MSF is not simply the sum of numbers below, as some activities serve the same individuals - some water produced by MSF is also distributed by MSF.

¹³ The bare minimum international standard in an emergency is 15 litres per person per day. In the current situation in Gaza, the minimum established by the WASH Cluster is 6 litres of drinking water and 9 litres of domestic water per person per day.



MSFの管理する水関連施設への攻撃

過去2年間、明確に識別可能なMSFの給水車や井戸も攻撃を受けている。それは、住民への給水活動中に発生することが多く、水や支援を求めて集まった人々や支援要員を危険に晒し、負傷させ、設備を損壊させている。これらの資産には常にMSFのロゴが明確に表示されている。幾つかの攻撃は、イスラエル軍が責任を負うことが明らかであるが、2件については状況が不明確である。確かなことは、これらの出来事が、水インフラやMSFの活動、輸送隊、避難所へのイスラエル軍による繰り返しの攻撃、保護の欠如という背景の中で発生したということである¹⁴。人道支援は、全ての当事者によって保護されなければならない。

MSFの水関連活動に対する武装攻撃

1. MSFの給水車への発砲

(2024年2月、南ハーン・ユーニス)

人々が給水車からジェリカンに水を汲んでいる最中、給水車に向けて銃撃が行われた。運転手は直ちにその場を離れた。

この事件は、イスラエル軍がハーン・ユーニスに侵攻した際に発生した。同時期、イスラエル軍の戦車が、明確に識別され、事前に通知されていたMSFスタッフの避難所を砲撃し、同僚の家族2名を死亡させ、6名に負傷を負わせた。そのうち5名は女性または子供であった。また、明確に標識が掲げられたMSFの建物に対しても銃弾が撃ち込まれた¹⁵。

2. MSFの水インフラの破壊 (2025年3月24日以後、 ラファ、アル・シャブーラ)

ラファでは、MSFが井戸の修復を支援し、水を浄化するための逆浸透膜装置を設置していた。この施設は、1日あたり約1万6,000人に十分な飲料水を供給していた。MSFはこの施設の座標と用途をイスラエル軍に伝えており、イスラエル軍も自軍のシステムに記録されていることを確認していた。しかし、イスラエル軍の軍事活動が急速に激化し、MSFはチームの安全を危惧せざるを得なくなり、3月24日に同地域からの撤退を余儀なくされた。その後、同地域はイスラエルの支配下にあるため、MSFはこのインフラへのアクセスも運用も一切行っていない。衛星画像によると、MSFの給水インフラは完全に破壊され、その周辺は更地となっている。

3. MSFの給水トラックへの銃撃

(2025年8月、ハーン・ユーニス)

8月23日、ハーン・ユーニスにある当団体の給水トラックの配給拠点の周辺に、子供たちを含む人々が集まっていたところ、激しい銃撃戦が発生した。現地のチームによると、銃撃は25分間続いたとのこと。トラックで水を待っていた少女が肋骨を撃たれ、救急車で搬送された。また、別の男性が手に銃撃を受けた。MSFスタッフ2名を含む残りの人々は、なんとかトラックの下に身を隠すことができた。銃撃により、フロントガラス、2つの水タンク、タイヤ、ジェリカンが被弾した。給水のために集まっていた避難民が居住する近くのテント施設も、散弾による被害を受けた。MSFは給水を中断せざるを得なかった。

4. MSFの給水車への発砲 (2025年9月、ガザ市東部、シェイク・ラドワン)

9月15日午後、イスラエル軍は、1万リットルの飲料水を配給していた、明確に識別可能なMSFの給水車に向けて発砲した。まず、監視用ドローンが、明確に識別可能なMSFのトラックの一つに着陸し、その後離陸した。次の停車地点で、クレーンに設置された機関銃がトラックに向けて発砲し、特に水タンクを狙って多数の弾丸を撃ち込んだ。同車両のルートとスケジュールは、イスラエル当局の要求に基づき、当時ガザ市内でMSFが毎日行っていた通り、事前にイスラエル当局に通知されていた。この攻撃は単なる誤射として片付けることはできない。これは2025年8月から続くイスラエル軍によるガザ市への侵攻中に発生したものであり、その侵攻には、全住民を強制的に避難させ、空陸両面の軍事作戦を拡大するという明確な意図があった。

5. MSFの水輸送車に向けた発砲 (2025年12月、ガザ市)

12月6日、MSFのスタッフは、ガザ住民が留まっている側のイエローラインから420メートル以上離れた場所で、水輸送車への給水を行っていた。彼らは東100メートル先に戦車とクアッドコプターを確認し、クアッドコプターが自分たちの方向に向けて発砲しているのを目撃した。MSFの知る限り、この紛争において戦車とクアッドコプターを保有しているのはイスラエル軍のみである。イスラエル当局はMSFに対し、クアッドコプターがMSFのWASH担当スタッフの方角に向けて発砲していた事実はないと述べた。MSFはアル・マンスーラ給水所への移動をやむなく中断せざるを得なかった。2026年2月5日に再開したが、わずか5日間のみであった。イスラエル軍が支配する側で給水所へ水を供給するメコロットの配管が再び破損したため、2月10日以降は移動を停止している。

¹⁴ For instance, incidents of 18, 20 and 24 November 2023: MSF convoy attacked in Gaza: all elements point to Israeli army responsibility; and incident of 8 January 2024: Gaza: MSF condemns strike killing staff member's five-year-old daughter.

¹⁵ "MSF strongly condemns Israeli attack on MSF shelter in Al-Mawasi which kills two and injures six", 21 February 2024, <https://www.msf.org/msf-strongly-condemns-deadly-israeli-attack-msf-shelter-gaza>

2. 人道支援と住民へのアクセス阻害：地域の軍事化と強制移住

不可欠な水、衛生施設、衛生行動のためのインフラや設備が直接破壊されたり、保護が著しく欠如したりすることに加え、イスラエル当局は、住民と WASH サービスが互いにアクセスする機会を大幅に制限している。攻撃、「避難」命令、イスラエル軍の統制区域の拡大により、WASH 関係者は活動停止せざるを得なくなり、資産を失い、住民が水を必要とする地域での水供給量を削減せざるを得なくなった。人々からサービスが遠ざかり、人々がインフラのない過密地域へ繰り返し移住を余儀なくされる中、数十万人が安定した水を得られなくなり、安全を犠牲にて水を汲みに行くか、水不足に耐えるか、あるいはさらに別の場所へ移住するかを選択を迫られた。

WASH 関係者へのアクセス阻害

2023 年 10 月以降、民間人や民間インフラに対する攻撃の頻度と深刻さが増したため、MSF は、いわゆる「グリーン」ゾーンや「人道」ゾーンへの空爆や攻撃を理由に、これら地域での給水活動やその他の WASH 活動を繰り返し変更または中断せざるを得なくなった。

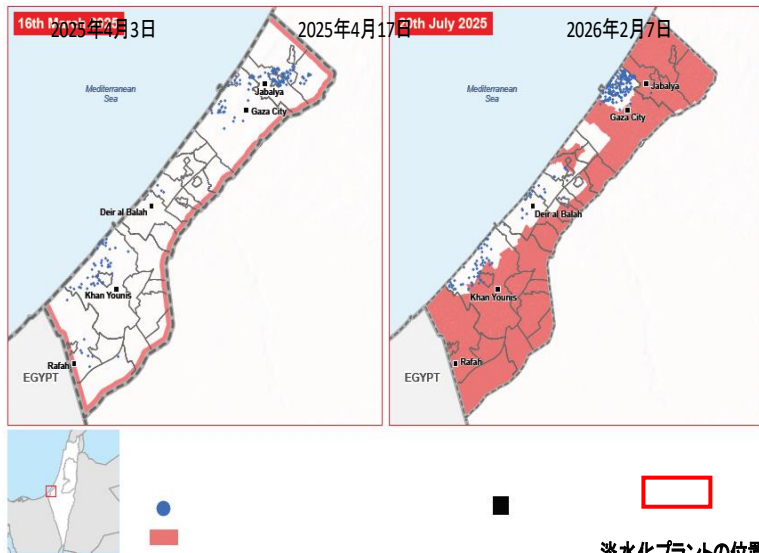
「避難」命令とイスラエル軍の統制

イスラエル当局による「避難」命令の発令は、しばしば数週間、数ヶ月にわたり継続し、撤回されることがなく、WASH 関係者の公共インフラや人道支援資産へのアクセスをさらに困難にさせた。事実上の強制移住命令であるこれらの命令は、ガザ地区の広範な地域を対象としている。例えば、2025 年 7 月 30 日時点では、同地域の 87% が「避難」命令またはイスラエル軍の支配下にあった。こうした地域における取水、浄水・配水、下水、廃棄物処理のインフラへのアクセスや修理は、圧倒的多数の事案で不可能であった。2026 年 3 月現在、イスラエル軍は依然としてガザ地区の約 58% を支配下に置き、それらの地域への住民や人道支援関係者への立ち入りを禁止している。2026 年 2 月、WASH 人道支援関係者グループは、WASH 施設の 43%（稼働中か否かを問わず）が、依然として住民にも人道支援関係者にもアクセスできない状態にあると評価した。これらの施設は、ガザ地区を分断する「イエローライン」のイスラエル支配側に存在している。さらに 10% は、WASH 関係者がイスラエル当局から許可を得た場合にのみアクセス可能であった¹⁶。



¹⁶ WASH Cluster Palestine. WASH Facilities Accessible Snapshot, 21 October 2025 updated 09 February 2026, <https://drive.google.com/file/d/1rZoyx-MQ-DmbXOqDNIRi5Xm14ig2CzLgR/view?usp=sharing>

資産の喪失 | MSFにとって、突然の「避難」命令の発令は、重要な水生産設備の喪失をもたらした。例えば、2025年3月末、最初の停戦破綻後、ラファ県全域への命令が出され、2026年3月現在も、この地域には住民やWASH関係者が立ち入れない。MSFは水の脱塩・浄化を行う初の中規模RO装置を設置し、複数の給水拠点で住民に水を配給していた。しかしMSFには、設備回収の時間が与えられなかった。現在、ラファ県を通ってガザ地区に出入りする車を走らせると、目に入るのは瓦礫に覆われた荒涼とした砂漠のみで、衛星画像からは、MSF施設が完全に破壊されたことが確認できる。



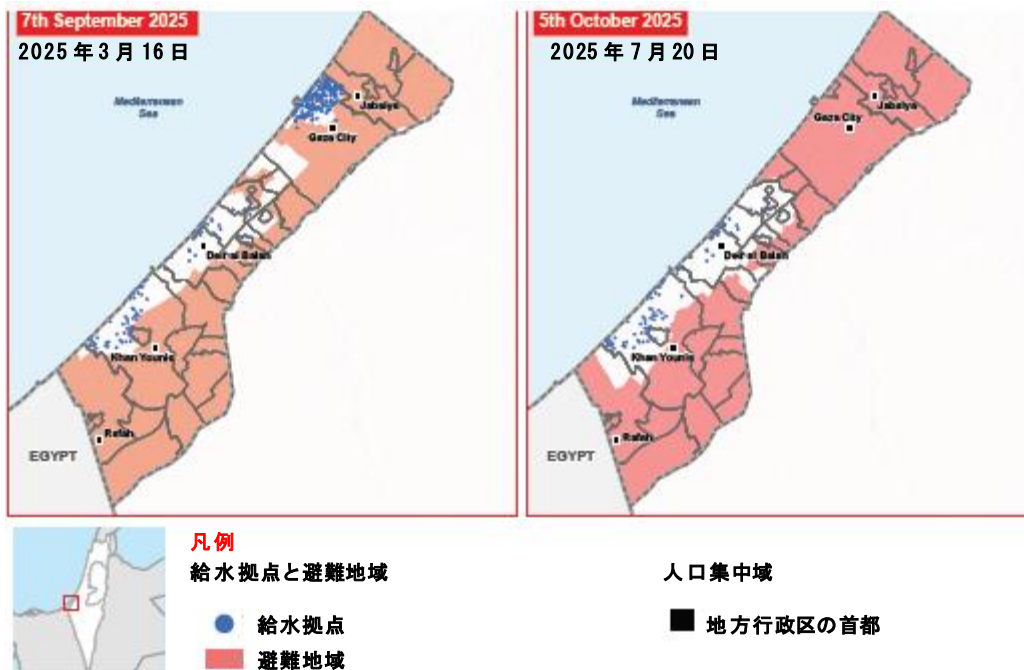
2025年3月16日（2か月間の停戦期間中）から2025年7月20日にかけてのMSF給水拠点の変更
 ラファ県や北ガザ県を含む多くの地域へのアクセスが遮断されたため



この地図は情報提供のみを目的としており、政治的な意味合いは含まれていない。地図上に示されている境界や名称、および表記は、MSFによる公式な承認や支持を意味するものではない。



ガザ市全域への「避難」命令発令後の、2025年9月7日から2025年10月5日までのMSF給水拠点の変更



同時期、北部では、MSFがベイト・ラヒヤで損壊した井戸の修復、RO装置の設置、および同地域への給水トラックの派遣を計画していた。しかし、北部に対しても「避難」命令が発令され、アクセスが大幅に制限された上に、攻撃が激化した。その井戸の構造物は、作業が始まる前に破壊されてしまった。

活動停止 | 機材の損失に加え、突発的かつ大規模な「避難」命令により、MSFは主要なインフラへの支援を継続できなくなった。MSFは、井戸から水を汲み上げるための発電機用燃料を供給することで、水へのアクセスを支援している。2025年3月中旬、北部への命令が相次ぐ中、MSFは燃料配給の窓口との連絡が途絶え始め、それらの発電機へのアクセスもできなくなった。
写真はアトラ井戸の改修工事。

この井戸は、周辺地域に1時間あたり
140 m³ (14万リットル) の生活用水を供給している



写真は海岸沿いの道路沿いにある給水拠点。トラックは1回の運行で15,000リットルの水を配給し、1日に2〜3回運行する。15,000リットルあれば、約2,500人に、1人あたり6リットルの緊急時の飲料水を供給可能

サービスの強制移設 | 国際人道法では、水道施設や給水設備を含む、民間人の生存に不可欠な物資を攻撃、破壊、撤去、または使用不能にすることを明確に禁じているにもかかわらず、イスラエルによる移住命令が出された地域では、ガザ地区の他の地域に比べ、攻撃リスクがさらに高いことが明らかになった - つまり、重要な WASH 設備が破壊される危険に晒されていたのである。MSF は恐ろしいジレンマに直面した。設備を保護するために移設させることは、一部の人々にとっては、彼らの唯一の水源を奪うことになってしまう。

例えば、イスラエルによるガザ市侵攻が2025年8月に始まった際、MSF は RO 装置を5基を運用し、これらで1時間あたり合計70m³の飲料水を生産していた。これは1時間あたり1万1,600人以上の最低限の需要を賄う量である。イスラエル軍が空爆と地上作戦を激化させるにつれ、多くの NGO や民間の給水事業者が撤退したが、推定70万〜80万人がガザ市に残留していた¹⁷。9月17日、治安情勢の悪化から、MSF は3基の RO を南部へ移設する決定を下し、2基はガザ市に残留する人々への供給に充て、ガザ市の飲料水生産量を3分の1に削減した。

給水トラックの運行が不可能に | ガザ市への侵攻中、MSF は市内に残された人々へのサービス不足を補うべく給水トラックの活動を再編成せざるを得なかったが、イスラエル軍による保護が得られないため、これは極めて困難なものとなった。2025年9月10日、イスラエル軍はガザ市内における人道支援活動の移動について、軍との調整を義務付けた。MSF は9月10日〜23日、撤退を余儀なくされるまで毎日移動計画を連絡していた。一部の MSF の移動はイスラエル軍に承認されたが、この14日間に提出した27件の給水トラック移動要請は100%却下され、MSF はスタッフや現地パートナーの保護についてさらに懸念を強めた。9月15日、イスラエル軍は明確に識別可能な MSF の給水トラックに発砲した。MSF は毎日、翌日水を供給できるかどうか確信が持てないと住民に伝えざるを得ず、それが住民の不安を増幅させ、自宅に留まることを困難にしている。

MSF には、これらの措置は民間人を強制移住させ、同時に地域を離れられない住民から水を奪おうとする意図的な試みであり、特に最も貧しい人々、病人、最も脆弱な立場の人々に深刻な影響を及ぼしているように見える。

¹⁷ On 10 September 2025, the UN estimated the population of Gaza City to be around 1 million people (United Nations Office for the Coordination of Humanitarian Affairs, Gaza Strip Humanitarian Situation Update #321, <https://www.ochaopt.org/content/humanitarian-situation-update-321-gaza-strip>). On 17 September 2025, around 198,000 displacement movements have been recorded since 14 August 2025 from the north to the south of the Strip, though the real number of people displaced is likely higher (Site Management Cluster, Gaza Population Movement Monitoring Flash Update 28 (14 - 17 September, 2025), <https://reliefweb.int/report/occupied-palestinian-territory/gaza-population-movement-monitoring-flash-update-28-14-17-september-2025>). On 23 September, that number had gone up to almost 340,000 movements to the south. (<https://reliefweb.int/report/occupied-palestinian-territory/gaza-population-movement-monitoring-flash-update-20-23-september-2025>)

住民へのアクセス阻害

住民から遠ざけられるサービス

給水事業者が停止や移転を余儀なくされたため、ガザの住民は水を利用できなくなっている

ガザの多くの住民は、給水事業者が地域全体から撤退を余儀なくされた際、水を利用できなくなった。給水システムを失うことは、MSF のチームを含む全ての人々に精神的負担も強い。MSF の水・衛生施設担当マネージャーのカリームは、人々を支援し、かつチームを保護するというジレンマに直面していることが最も辛いと語った。

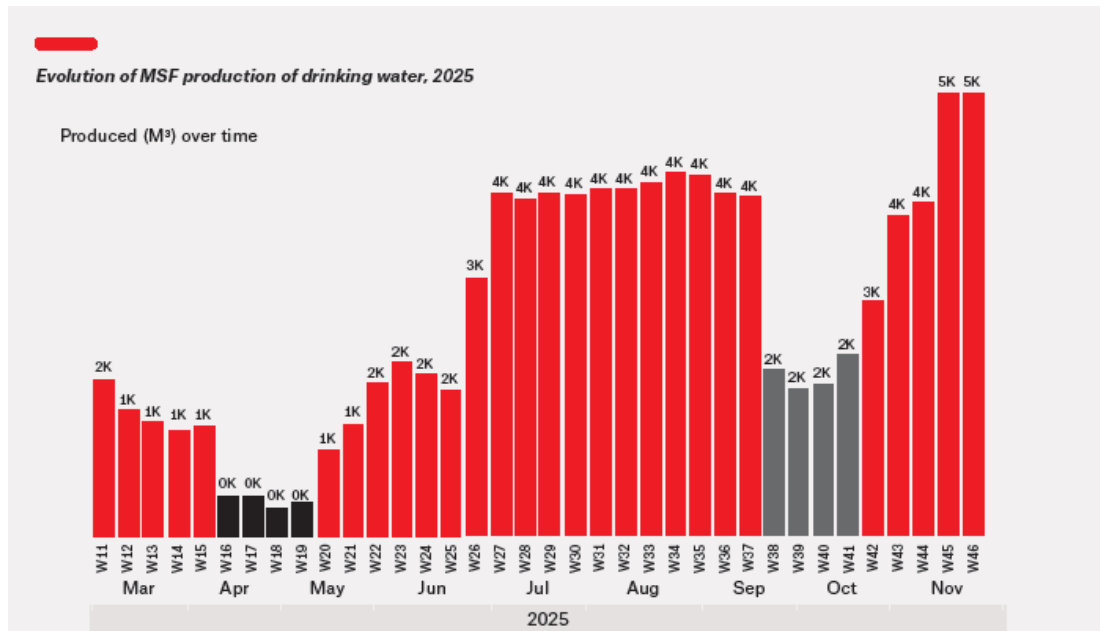
【停戦が破綻した時 [2025 年 3 月 18 日]、彼ら [イスラエル軍] はラファ県全域に避難命令を発令した。私たちは安全上の理由から、直ちに給水トラックの活動を停止した。14 か所の給水拠点の各コミュニティ代表者から次々と電話がかかってきて、水はどこにあるのかと問い詰められ、「私たちはまだここにいるのに、なぜ水を止めようとするのか？ これでは、イスラエル軍が望んでいた通り、私たちにこの地域を離れるよう促していることになる」と言われました。私にとって、こうした電話を受けることは、本当に、本当に辛かったです。正直なところ、ある時点で私は精神的に限界に達し、大泣きしてしまいました。非常に落ち込みますが、私たちはできる限り長く留まり、人々を助けるつもりです。】

その後も段階的に新たな命令が下され、その度に MSF の給水拠点が影響を受けた。住民にとって給水拠点の移動の影響は甚大である。「給水所がたった 50 メートル移動しただけでも、障害を持つ人々、多くの負傷者、そして夫を亡くした女性たちは、水を手に入れるのがさらに困難になります」とカリームは説明した。「私たちにとっても胸が張り裂けるようなことですが、どうすることもできません。それが 200 メートル、300 メートルになったとしたら、どうなるか想像してみてください。」

給水所が遠すぎると、多くの住民が水を手に入れる手段を完全に失ってしまう。2024 年～2025 年に、住民は私たちに情報を寄せ、建物の屋上に狙撃兵がいるのを見たり、路上で人が撃たれたり、周囲で空爆が行われているのを見たと話してくれた。住民たちは、危険に晒されるリスクが高まる中、給水所までより長い距離を歩いて行くか、その場に留まって地元の慈善団体や親切な人が水を供給してくれることを期待するか、あるいはその地域から完全に避難せざるを得なくなるかという、困難な選択を迫られている。



2025 年における MSF による飲料水生産の推移（時期別の生産量 M³）



3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月

2025 年 4～5 月

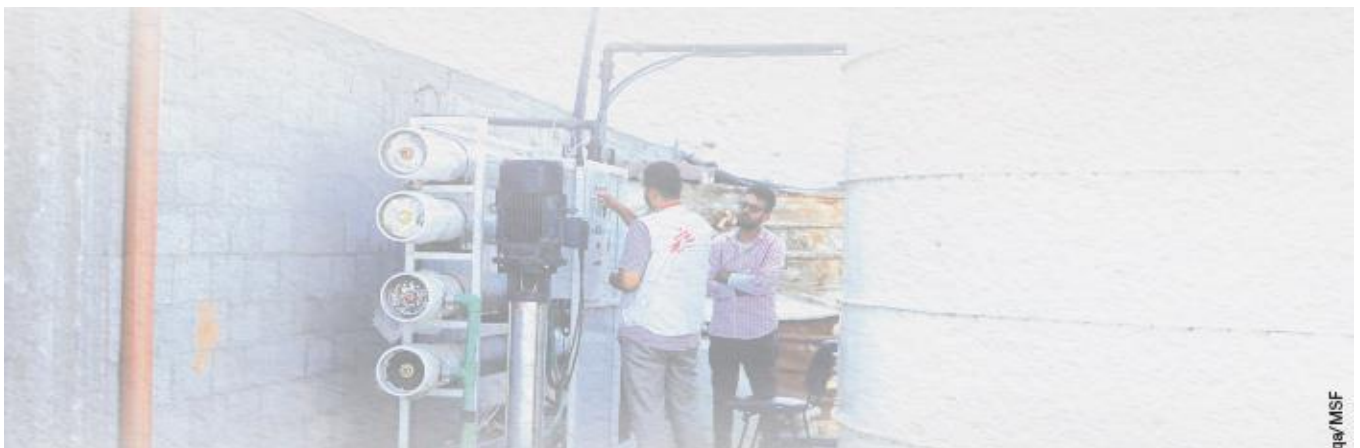
- 停戦が破られ、イスラエル軍はラファの広範囲かつ恒久的な避難などの様々な「避難」命令を発令し、その結果、MSF は R0 施設を失うこととなった。北部でのその他の命令により、MSF はジャバリアからガザ市へ R0 施設の 1 つを移動させざるを得ず、その施設が再び機能するようになるまでに 5 週間を要した。

- 4 月 7 日～13 日の週、MSF は 30,200 人の 1 日あたりの最低必要量を賄えるだけの水を生産していたが、4 月 14 日～20 日の週から 4 週間に渡り、MSF が生産できた水は僅か 10,700 人分に止まり、**65%の減少**となった **18**。

2025 年 9～10 月

- イスラエル軍はガザ市での軍事作戦を拡大したため、MSF はガザ市の拠点から一部の施設をデイル・アル＝バラフとハーン・ユーニスへ移設した。

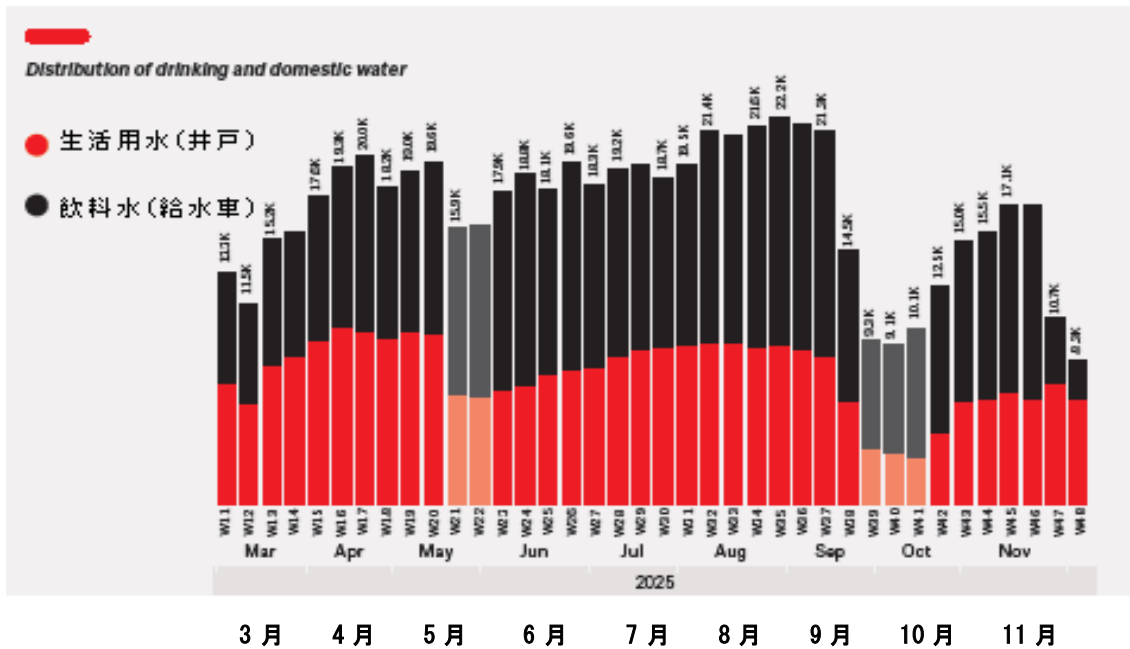
- 9 月 8 日～14 日の週、MSF は 9 万 4,000 人の 1 日あたりの最低限の需要を満たす水を生産していたが、9 月 15 日～21 日の週には、4 万 6,100 人の需要しか賄えず、**生産量は半減した 19**。



18 From 1,270,000 L/week to 450,000 L/week; extreme minimum standards are at 6L of drinking water, and 9L of domestic water per person per day.

19 From 3,950,000 L on the week of September 8–14 to 1,938,000 L on the week of September 15–21.

飲料水および生活用水の供給



2025年5月

- 2025年5月、イスラエル軍は北部行政区のジャバリヤとペイト・ラヒヤにおいて「避難」命令を発令した。
- これらの移住命令により、燃料へのアクセスが制限されていた上に、MSFは様々な給水拠点、井戸、発電機へのアクセスも遮断された。5月12日～18日と19日～25日の間、MSFによる井戸からの生活用水の供給は、104か所での15万5,300人の1日あたりの最低必要量を賄っていたものが、60か所での9万9,100人分へと減少した。つまり、生活用水の配給の3分の1以上が停止したのである²⁰。



2025年9月

- ガザ市におけるイスラエル軍の軍事作戦は、空爆、銃撃、戦車の進撃に加え、MSFによる給水車移動の調整の試みが拒否されたことで、住民およびWASH関係者の安全状況を極めて危険なものにしていた。
- 2025年9月6日～28日、MSFは給水拠点を削減せざるを得なくなり、その後、給水を完全に停止せざるを得なくなった。その後、中部地区での給水を拡大した。ガザ地区全域において、MSFによる給水量は半分以上に削減された²¹。ガザ地区北部（ガザ市を含む）では、MSFが供給する飲料水および生活用水は95%減少した²²。具体的には：

- 9月の第2週には、232か所で1日あたり約26万8,700人の需要を賄っていたものが、
- 9月の第3週には、203か所で1日あたり11万4,000人以上の需要を賄うこととなり、
- 9月の最終週には、54か所で1日あたり1万4,800人未満の需要を賄うに留まり、その後、私たちは完全に撤退せざるを得なくなった。

²⁰ From 9,781,000 L/week in 104 locations to 6,242,000 L/week in 60 locations (36% decrease). ²¹ From 3,950,000 L on the week of September 8-14 to 1,938,000 L on the week of September 15-21.

²¹ From 21,311,000 L on the week of September 8 to 9,327,000 L on the week of September 22.

²² From 12,942,300 L for the week of September 8; to 5,674,300L for the week of September 15; to 666,000L on the week of September 22.

支援から切り離される人々

ガザの住民は、繰り返し強制移住させられているため、水を利用できなくなっている

そもそも、イスラエル当局や軍によって、人々が大規模かつ繰り返し避難を余儀なくされ、主に水道や衛生設備、その他の生活必需サービスが整っていない地域へ追いやられていなければ、これほど大規模な人道支援は必要とされなかったはずである。何度も移住を余儀なくされた MSF の同僚は次のように説明した。「避難命令は全てを複雑にする。私たちは給水を実施するために最善を尽くして準備をするが、また新たな避難命令が出され、新しい居住地へ水を運ぶための、新たな探索の旅に出ることになる。」衛生行動への影響も明らかだ。

【荷物をまとめてから逃げるような時間は殆どありません。同じ服を着たまま、同じマットレスを背負って、何度も何度も移住を繰り返させられるのです。】

また、こうした命令による非人道的な人口集中により、WASH へのアクセスも逼迫している。2023 年 10 月の事態悪化以前にも、ガザ地区はすでに世界で最も人口密度の高い地域の一つであり、その人口密度はロンドンやテルアビブに匹敵していた。2025 年 9 月、イスラエル軍によるガザ市への侵攻の際、210 万人の全住民が移動を命じられたいわゆる「人道支援区域」は、僅か 43.3km² で、人口密度は 4 万 8,500 人/km² に達した。比較すると、ニューヨークのマンハッタン（低層の建物やテントの代わりに高層ビルが立ち並んでいるが）の人口密度は 2 万 8000 人/km² である。この人道支援区域は、27% も狭い面積にさらに 50 万人を閉じ込めることになり、基本的ニーズも満たされず、逃げ場もなかった。全員がガザ市を離れたわけではないが、ガザ市から西部のデイル・アル＝バラフやハーン・ユニス - すでに避難民で溢れかえっている地域 - への数十万人の強制移送は、もう限界に達していた資源にさらに大きな圧力をかけた。適切なインフラを整備する余地など、そもそも存在しなかった。



3. WASH サプライチェーンの妨害

ガザ住民が水、衛生施設、衛生行動へアクセスできない状況は、インフラの破壊、強制移住や治安悪化によるアクセス障害に加え、イスラエル当局によるエネルギーおよび WASH 設備の技術的解決へのアクセス妨害によっても引き起こされている。

エネルギーへのアクセス妨害

エネルギーは、清潔な水の生産・供給、下水を含む廃水処理、さらには衛生用品の配布に不可欠である。これらの活動には、特に海水淡水化プラントやその他の処理設備を稼働させるための電力、そしてガザ地区全域で水を供給し、汚水溜めを清掃し、石鹼やジェリカンなどの物資を配布するトラック用の燃料が必要とされる。しかし、イスラエルは 2023 年 10 月、ガザ地区への電力供給を遮断した。再接続されることはごく稀で、限られていた。それからほぼ 2 年後の 2025 年 7 月末、南部の海水淡水化プラントへの電力供給が再開された。



ガザの限られた発電能力は、国際人道法で保護されていたにもかかわらず甚大な被害を受けた。MSF は、送電線、ソーラーパネル、発電機の破壊、そして一帯が完全に更地と化している様子を目撃した。ガザ市の MSF 病院に入院中のある家族の祖母は、家族がソーラーパネルを持ち出すことをイスラエル兵が許さなかった経緯を MSF に語った。「彼らは電話で私に移住するよう命じた。私は懇願しました。『せめてソーラーパネルだけは持って行かせてくれませんか?』と。すると彼は『一つだけならいい。それ以上持っていけば、撃つぞ』と言いました。それで私たちはソーラーパネルを 1 つ持って行き、彼らは家を破壊しました。」

イスラエルや（より小規模ながら）エジプトからの供給を除くと、ガザのエネルギーの大部分は、燃料を原料として製造されたものであった。現在、ほぼ全てが燃料に依存しているが、ガザへの燃料搬入を許可された国連プロジェクト・サービス機関（UNOPS）は、その供給に優先順位をつけざるを得ない。イスラエル当局は人道上の必要性にもかかわらず、燃料供給を組織的に制限し、その移動制限により、UNOPS がガザ内の備蓄を回収する能力も制限されている。



燃料不足が WASH へのアクセスに及ぼす影響

2025 年 6 月 17 日時点で、ガザへの燃料の搬入は 100 日以上途絶え、国連が「避難」区域から燃料備蓄を回収しようとする試みは繰り返し拒否された²³。自治体は井戸を 1 週間に 1 回か 2 週間に 1 回しか稼働できなかった。

この状況により、MSF では、2025 年 6 月の第 1 週には北部にある備蓄の 1 つが底をつき、WASH 活動を継続できなくなるまで、燃料が僅か 3 日分しか残っていなかった。私たちは給水車の運行を制限せざるを得ず、2025 年 6 月には一部のトラックが給水ステーションから半径 3km 圏内での配水に限定された。2025 年 5 月には、すでに割り当てられる燃料量が減らされており、供給できる量も少なくなっていた。北部における井戸への供給量を半減せざるを得ず、11 万 300 人分（1 日 993m³）の生活用水の生産量も半減した。また、避難民が身を寄せている地域で、下水で汚染された池の水を汲み出す計画も中止せざるを得なかった。利用可能なポンプは数台しかなく、それらはディーゼルではなくガソリンを必要としたが、ガザ地区で許可された僅かなガソリンは、当然のことながら人道支援セクターによって救急車に優先的に割り当てられていたからである。

²³ United Nations Secretary General. "Highlights Of The Noon Briefing By Farhan Haq, Deputy Spokesperson For Secretary-General António Guterres, Tuesday, 17 June 2025". <https://www.un.org/sg/en/content/noon-briefing-highlight?date=2025-06-17>

ガザ地区への WASH 物資の搬入妨害

イスラエル当局は、インフラの破壊、強制移住、およびアクセス制限を続け、人道支援団体や公的・民間の WASH 関係者が住民を支援するための緊急 WASH サービスを提供する能力を継続的に阻害している。2025 年 12 月時点で、MSF は、依然として一部の物資を搬入できる数少ない国際人道 NGO の 1 つであり、他の殆どの団体は数か月にわたり、それらが組織的に遮断されていた。2026 年 1 月 1 日以降、イスラエル当局によって承認が決定される専用システムを通じた物資搬入の申請は、**全て却下**されている。

しかし、こうした物資供給の妨害は決して新しいものではない。イスラエル当局は 2023 年 10 月の遙か以前から物資供給を制限していたが、人々が最も支援を必要とするまさにその間の、物資供給の遮断行為はさらに増大している。報告書『Choking Gaza』で詳述されているように、ガザ地区での 2 年以上に渡る戦争を通じて、MSF はガザへの生活必需品の搬入を承認・管理するイスラエル側の恣意的かつ非効率的な手続きや慣行、さらに人道上の基本的ニーズが軍事上の利益に全面的に従属させられている実態を目の当たりにしてきた。これらは、MSF の人道支援活動の規模と質を著しく損なうものである。

ナセル病院の事例：飲料水を作るための資材の不足

ナセル病院には 2 つの主要な井戸が水を供給している。2025 年 10 月、検査の結果、深刻な汚染が判明した。1 つの井戸は大腸菌と糞便性大腸菌群に完全に汚染されており、もう 1 つの新しい井戸は汚染されていなかったものの、塩分濃度が高く、処理なしでは使用に適さない状態だった。病院には 3 基の RO 装置があったが、いずれも正常に機能していなかった。主な問題は、膜、フィルター、およびスケール防止剤（水中の無機成分が結晶化して配管に固着するのを防止する薬剤）や塩素などの必須化学薬品の不足であった。この状況により、新生児病棟での粉ミルク調製にさえ病院は清潔な水を直接利用できなくなり、水を別の場所で汲み上げて浄化し、トラックでの運搬の必要性が生じた。MSF は水処理装置の修理を行ったが、殆どの部品が不足していたため、作業には遅れが生じた。



恣意的で非効率的かつ制限的なシステム

イスラエル当局による承認

MSFによる水、衛生施設、衛生用品の供給は、イスラエル国防省傘下の「占領地政府活動調整官組織（COGAT）」から承認を得る上で大きな障害に直面している。2025年10月に米国主導の「文民・軍事調整センター（CMCC）」が設立されたが、承認の決定権は依然としてイスラエル政府にあり、MSFの状況改善には目立った進展はない。

多くのWASH関連物資は、差し止められるか、あるいは承認されないままである。2025年1月～3月の停戦期間中も、全体的に見れば物資の搬入状況は改善されてはいたが、浄水用のRO装置など一部のWASH物資の持ち込みは依然として許可されなかった。イスラエル軍は、WASH関連を含む多くの必須人道支援物資を、他の文脈ではそう見なされていないにもかかわらず、「デュアルユース」（軍事利用リスクがある）とみなしている。MSFは数か月間、そのように扱われる物資リストを入手できなかった。数回リストを提供されたものの、その後、リストは「無効になった」と告げられ、私たちは推測するしかなかった。2025年10月に受け取った最新のリストでも、給水車、海水淡水化ポンプ、金属製廃棄物コンテナ、小型発電機、下水道点検・詰まり除去装置、水質検査キット、ROシステム用膜、化学洗浄剤などは、依然として特別な承認手続きを要する品目として分類されている。RO装置、アルミニウムパネル製のトイレやシャワー、大規模な給水活動に対応可能な出力（30KVA以上）のディーゼル発電機については、最も複雑な承認レベルでの申請が求められ、実際には、承認されることはほぼない。

2024年初頭～2025年12月中旬に、極めて緊急を要する状況下で、MSFが提出したWASH用品の搬入申請のうち、これら人命救助に必要な人道支援物資の3分の2（67%）しか承認されなかった。これはMSFが複雑な規制に準拠しようと申請品目を限定していた状況で生じた。その他の申請は却下されるか、回答が得られなかった。COGATが回答をした場合、29パーセント - 10件中ほぼ3件 - が却下であった。一方で、イスラエルには、占領地域における支援へのアクセスを円滑にする法的な義務がある。



写真は逆浸透装置で水の脱塩と浄化に使用される膜

却下された物資

2025年に却下されたWASH関連物資には、病院用ウォーターポンプ、飲料水生成のための逆浸透（RO）装置、ROシステム内のスケール防止剤、RO用スペアパーツ（圧カスイッチ、流量計、水フィルター、ろ過用膜、投与ポンプ）、給水ホース、飲料水輸送用貯水タンク、緊急用トイレ用のしゃがみ用プレートが含まれていた。

人道支援は決して政治的プロセスに左右されるべきではないが、2025年10月の停戦合意では、支援物資の搬入状況の改善が約束されていた。同計画では、「全面的な支援」、「インフラ（水道、電気、下水道）の復旧」、「双方の干渉なし」が約束されていた。この合意が発効して以来、2025年12月14日時点で、13種類のWASH関連物資が却下されている。これには、スケール防止剤、MSF病院用の水道管、飲料水消毒用の塩素錠剤、貯水用薬剤（貯水や脱塩装置内での細菌や微生物の増殖防止）、殺鼠剤、殺虫剤などが含まれる。

MSFは、こうした極めて重要な物資搬入が阻止されている理由の理解に苦労している。WASH環境が住民全体の生存に及ぼす脅威を考慮すれば、その搬入阻止は特に不釣り合いな措置と思われる。これらの妨害は、水タンク、スケール防止剤、塩素錠、RO装置などの、同じ品目でも拒否されたり保留されたり、承認されることもあることを考えると、さらに恣意的に感じられる。最も頻繁に要請する物資の中には、発電機の稼働に不可欠なエンジンオイルも含まれるが、これもまた、拒否されたり、保留されたり、承認されたりしている。



未処理の申請案件

2025年12月中旬現在、19種類の物品に関する申請が、1か月～1年に渡り未処理のままとなっている。これには、給水用のポンプ2台も含まれ、COGATからの2回の質問を経て、私たちは3回も申請を提出している。これらの申請は、それぞれ2024年4月と5月に最初に提出され、直近の再提出は2025年7月であったが、依然として承認されていない。その他の例として、貯水タンク、スケール防止剤、トイレの汚水を排出する簡易ポンプなどが挙げられる。これら全ての品目は過去に承認された場合と却下された場合があり、このプロセスの恣意性質を浮き彫りにしている。

承認へのその他の障害

2025年7月以降、新たな障害が加わった。COGATはMSFに対し、「化学物質」に分類されるあらゆる物資の全組成の開示を求めている。各成分を個別に列挙し、正確な割合を記載しなければならない。しかしながら、製造業者はこれらを機密情報としているため、情報提供は不可能である。MSFでは、製品の組成、安全性、関連するリスクを示すために、使用されている国際的な業界標準文書の提出を要請したが、この要請は却下された。

MSFの化学物質に関する全ての要請は事実上阻止されており、これには以下のWASH関連品目も含まれる。

- 石鹼、手指消毒ジェル、医療機器や表面用消毒剤、塩素など、13種類の洗浄・消毒製品。水処理に不可欠な塩素錠剤については同じ書類に基づいて、許可・却下が繰り返されている。
- 浄水の処理および貯蔵に不可欠な製品、例えばスケール防止剤や貯蔵用化合物など。これら2品目は2025年10月末に再度却下されたが、RO関連品目のその他の項目については全て承認された。こうした状況により、私たちの施設で生産された水が住民に安全な状態を維持し続けることを保証できなくなっている。
- 蚊よけスプレーや殺虫剤など、害虫駆除用の3種類の製品。

イスラエル当局がすでに2回（一般認可とデュアルユース検証）承認した品目でも、私たちは依然として詳細な通関手続きに従わなければならない。テントで暮らす人々が、特に6月～10月にかけて、絶え間ない蚊、サンドフライ、ハエの刺咬や存在にどれほど苦しめられているかを見てもなお、86箱の虫除けスプレーが2024年7月から倉庫に放置されたままとなっており、通関手続きの遅れにより出荷が滞っている。

物資の確実な搬入

承認は搬入を保証するものではない。物資がようやく全ての認可を得たとしても、MSF は、ガザへ確実に物資を搬入するために、長期間かつ多額の費用を要する新たな課題に直面することになる。COGAT によって承認された多くの WASH 物資は、輸送のために次の段階を待つ間に足止めされたり、あるいは国境で単に拒否されている。どちらの場合も、同じくイスラエル当局によるものである。ガザの人々にとって、こうした障害は、重要な人道支援物資が到着するまでに数ヶ月を要したり、全く届かなかったりすることを意味する。MSF にとっては、保管やトラック輸送に莫大なコストがかかる。例えば、MSF の WASH 物資を積んだトラックは、検問所で繰り返し拒否され、再挑戦を待つためにエジプトまで引き返さなければならず、時には数週間も待機を余儀なくされた。これにより、1 台あたり 1 万 2,000 米ドル [約 190 万円] 以上、複数のトラックへの費用が発生した。

ガザの人々は、建築資材に対する全般的な規制のため、手頃な価格ではなく実用性に欠ける材料を探して購入してトイレを作らざるを得ない一方で、MSF は 2025 年 4 月末以来、ヨルダンでガザへの搬入を待つ 2,150 基のトイレを保有していた。2025 年 3 月の最初の申請から回答を待つこと 106 日を経て、7 月に承認された。2025 年 12 月中旬の時点で、これらのユニットは依然として移動していない。その理由は、誤った承認番号が通知され、継続的な働きかけにもかかわらず、新しい番号が一度も発行されていないためである。滞留物資は、個人からの寄付で運営される当団体にとって莫大なコスト（トイレだけで 268,707 ユーロ [約 5 万円]）が必要となるだけでなく、輸送途中で滞留している他の全ての物資と同様に、さらなる保管費用と物流上の労力がかかってくる。

ガザへの RO システムの搬入を要請するにあたり、MSF は数多くの拒否や手続きの長期化に直面してきた。これには、イスラエル当局への情報の再提出要請や、国境で機器が差し止められた事例も含まれる。その結果、私たちはガザに既にあった古なった破損した RO から部品を回収し、様々なユニットを製作せざるを得なかったが、稼働に不可欠な予備部品、フィルター、化学薬品は底をつきつつある。このような海水淡水化システムは、現在差し止められている WASH 関連物資の中で最も懸念されるものである。なぜなら、これら無しで、MSF は安全な飲料水を提供できないからだ。

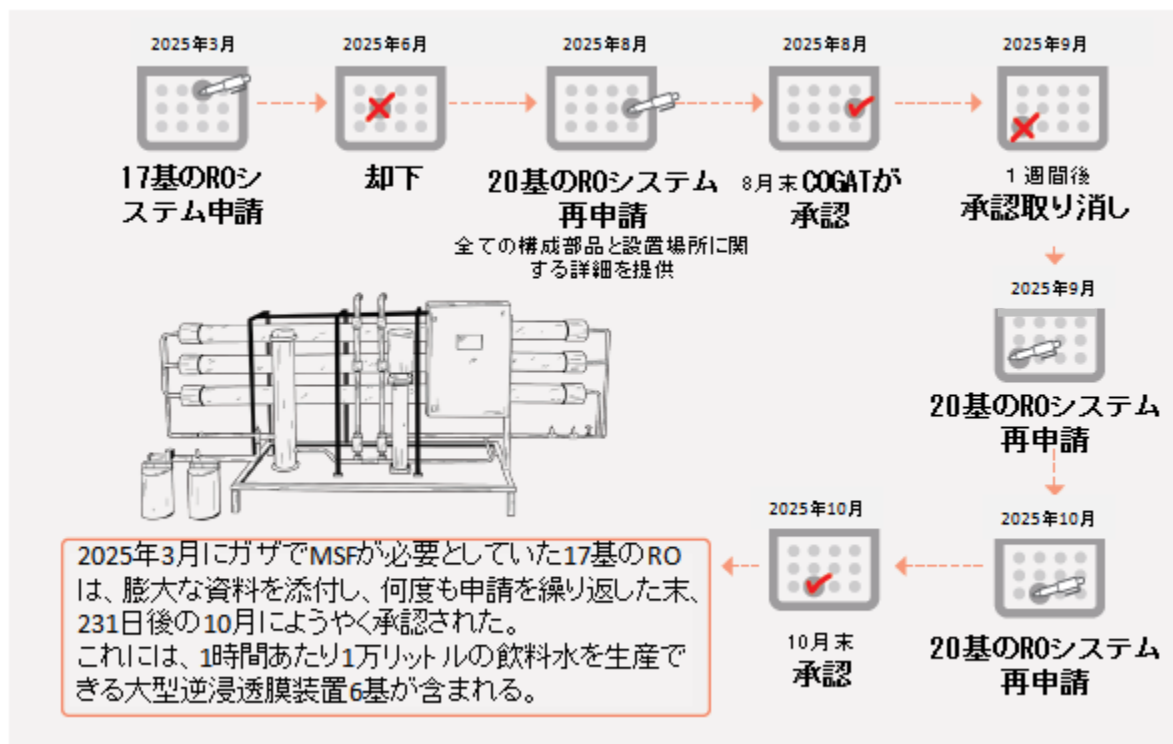
2024 年、申請段階あるいは国境で拒否されたため、MSF の海水淡水化システムは 1 台もガザに搬入できなかった。

2025 年、MSF が要請した小型の海水淡水化システム 6 台のみをガザに搬入することができた。

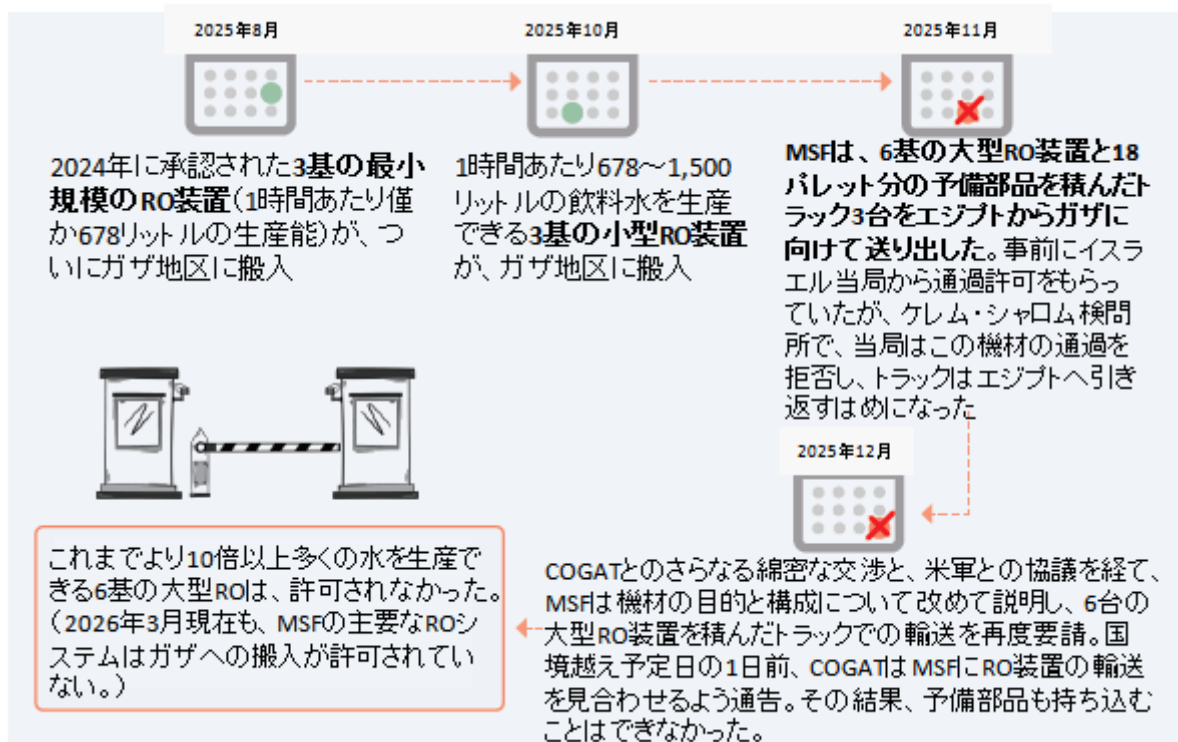


時系列：2025年にガザへ飲料水を生産するための海水淡水化（RO）システムを持ち込もうとしたMSFの試みをイスラエルが阻止した経緯

イスラエル当局による承認



イスラエル当局が管理する検問所での実際の搬入状況





限られた選択肢

MSFは、主要な物資を代替手段で調達せざるを得ない状況に追い込まれている。ナセル病院の給水システムの修理は、RO膜の調達に手間取り、丸1か月間未完了のままだった。その間、必要な備品はガザ地区外で足止めされていた。MSFがハーン・ユニスに新しいROシステムを建設した際、新しい井戸の掘削・設置に必要な機材を現地市場で見つけるのに1か月を要した。

2026年1月1日以降、MSF物資のガザへの搬入が阻止されているため、WASHの状況を改善する私たちの能力は、さらに制限されている。現地市場で入手可能な僅かな予備部品は高価で、品質が低い場合が多い。それらには浄水フィルター、散水機、接続部品、ホース、蛇口などが挙げられる。発電機や車両のスペアパーツは現地での入手がほぼ不可能であり、給水トラックによる給水、機材の輸送、エネルギー供給に影響を及ぼしている。

すでに縮小されたMSFのWASH関連物資リストの3分の1が承認されず、承認された物資の多くが国境で差し止められている現状は、痛ましい限りだ。占領国として住民のニーズを満たす法的義務を負うイスラエルが、このような事態を招いていることは、非常に衝撃的である。こうしたニーズは、インフラへの爆撃、大規模な住民の移住、ガザ地区の大部分へのアクセスを妨げるといった、イスラエル当局自身の行為から生み出されている。2024年1月、国際司法裁判所(ICJ)は、ジェノサイドの現実的リスクを認定し、それを防止し、人道支援の提供を確保する即時措置を求めた²⁴。2024年3月、ICJはこれらの措置を再確認するとともに新たな措置を追加し、水、衛生施設、衛生行動を含む、緊急に必要とされる基本サービスと人道支援の大規模かつ妨げのない提供を強く求めた²⁵。ガザの人々が水と衛生施設を奪われている一方で、イスラエル当局は支援を蛇口のように扱い、ガザ地区への支援をほんの数滴分しか通さないよう、蛇口を閉めたり僅かに開けたりを繰り返している。

水へのアクセスが武器となり、トイレに行くことや体を洗うことが日々の苦闘となる時、それは生存と人間の尊厳を脅かし、国家の責任が問われる事態となる。MSFは2年以上、イスラエル当局が犯したジェノサイドの中で、水・衛生施設・衛生行動へのアクセスがガザの全住民に対してどのように利用されているかを、現場で見てきた。民間インフラの広範な破壊、ガザ地区内でのWASH関係者の活動制限、繰り返される住民の強制移住、救命物資の遮断は、生活基盤の破壊であり、全住民への集団的処罰に他ならない。こうした事態が進行する一方で、ヨルダン川西岸地区のパレスチナ人は、水へのアクセスを標的としたイスラエルの攻撃などを通じて、民族浄化に苦しんでいる。この状況において、全ての国家には法的かつ道義的な義務がある。イスラエル当局は、パレスチナ住民の生命を維持するために、誰もが利用すべき基本的権利である水、衛生施設、衛生行動を確保できるよう保証しなければならない。その他の国家は、パレスチナの人々がこれ以上人間としての尊厳を奪われることのないよう、あらゆる手段を講じなければならない。

²⁴ Application of the Convention on the Prevention and Punishment of the Crime of Genocide in the Gaza Strip (South Africa v. Israel), Provisional Measures, Order of 26 January 2024, I.C.J. Reports 2024, Paragraphs 78 and 79, p. 3, <https://www.icj-cij.org/sites/default/files/case-related/192/192-20240126-ord-01-00-en.pdf>

²⁵ Application of the Convention on the Prevention and Punishment of the Crime of Genocide in the Gaza Strip (South Africa v. Israel), ICJ, Order of 28 March 2024, <https://www.icj-cij.org/node/203847>.

緊急の要請

MSF はイスラエル当局に以下のことを要請する。

1. **ガザへの、人命を救う水、衛生施設、衛生用品の搬入・供給に対する妨害を停止すること。** こうした妨害は、民間人に対する継続的な直接的な暴力に加え、物資の剥奪によって人々に危害を加え、死に至らしめ続けている。
 - 逆浸透膜装置とそれに必要な化学物質、さらに予備部品、貯水タンク、給水車、並びにそれらの予備部品、発電機、ポンプ、簡易トイレ、その他同様の緊急 WASH 物資のガザへの搬入を許可しなければならない。
 - 建設資材や機材など、WASH システムの復旧に必要な物資も、ガザ地区へ搬入されなければならない。
 - 物資の搬入手続きは直ちに合理化され、透明化され、必要な総べての人道支援物資の搬入を可能にするものでなければならない。承認された全ての人道支援物資は確実に搬入されなければならない。支援物資はあらゆる可能なルート（ヨルダン、エジプト、イスラエル経由）を通じて搬入させなければならない。ガザ地区への全ての入域地点を開放し、ガザ地区内で物資を行き渡らせるために、より多くの道路の使用を許可し、通行可能にしなければならない。
2. 人道支援者が不可欠な水・衛生サービスを提供・修復することを妨げる、**ガザ地区内のアクセス制限を解除すること。** イスラエル当局は、ガザ地区全域において、原則に基づいた方法でサービスへのアクセスが確保され、復旧され、人々がどこにいてもその恩恵を受けられるよう保証しなければならない。
3. **WASH 分野の人道支援関係者によるガザ地区へのアクセスを円滑化すること。** 国際 NGO による独立かつ公平な人道支援活動の継続が確保されなければならない。
4. 水、衛生施設、衛生管理のインフラおよびサービス、ならびにその他の民間施設の**保護対象としてのステータスを尊重すること。**
5. 国際人道法に基づく民間人の保護、ならびに WASH およびその他の人道支援サービスを提供する**人道支援要員の保護を遵守すること。**
6. とりわけ、人々の WASH サービスへのアクセスを阻害し、適切なインフラのない地域へ人々を追い込む**強制移住を停止すること。** 人々は、希望する場合、出身地へ戻ることを許されなければならない。



MSF は国連加盟国に以下のことを要請する

- 国際人道法を守る責任を負う、2024 年の ICJ の勧告的意見で再確認された義務を履行し、原則に基づく人道支援を保護する。
- 特に「平和評議会 (Board of Peace)」機構に関与している国々、
- イスラエルと緊密な安全保障・政治・経済的関係を維持している国々、および／または
- パレスチナ占領地域で支援を行っている国々に対して、この要請を行う。

イスラエル当局との協議において、以下のことを行う

1. 必要なあらゆる経済的、安全保障的、法的手段を駆使して、イスラエル当局に対し、インフラの破壊、ガザ地区の半分以上への立ち入り禁止、およびガザへの人道支援と物資の搬入阻止を通じて、**パレスチナ人が水、衛生施設、衛生行動へのアクセスを妨げる行為を直ちに停止**するよう要求すること。各国は国際法を遵守し、イスラエルに対し、パレスチナ人への直接的かつ構造的な暴力を停止するよう要求しなければならない。
2. イスラエル当局に対し、占領国としての義務を遵守し、ガザの人々が WASH サービスを十分かつ尊厳を持って利用できるよう**確保**することを要求すること。
3. イスラエル当局に対し、交戦当事者による干渉を受けずに、**国連および国際 NGO が調整する確立された支援提供メカニズム**を通じて、WASH 支援の迅速かつ緊急な拡大を確保し、支援を必要とする全ての人々への人道支援が安全、効率的かつ公平に行われるよう確保することを要求すること。

各国は、人道支援および開発援助のドナーとして、以下の措置を講じなければならない

4. 柔軟かつ持続的で予測可能な資金援助を拡大すること。
 - **差し迫った WASH のニーズ**に対応するため
安全な飲料水の生産・輸送、生活用水の汲み上げ・供給、安全で尊厳を保てるトイレ環境へのアクセス、および衛生用品へのアクセスなど。
 - また、長期的な **WASH インフラの復旧・再建**に対してこれらがなければ、人々は苦しみ続け、健康や生命を危険に晒し続けることになる。その際、必要な物資がガザ地区に搬入されるよう、あらゆる手段を講じる。

復旧の条件が整ったとしても、緊急の人道支援ニーズの優先順位を下げてはならない。

資金提供にあたっては、資金が確実に住民への具体的な支援に繋がるよう、支援物資の届き易さを確保するため、確固たる働きかけを行うべきである。

5. **ガザ地区全域において**、特に水・衛生、医療、住居といったサービスが、原則に基づいた方法で支援・再建・復旧され、**支援を必要とする全ての人々に届くよう確保**すること。**原則に基づいた人道対応への資金提供を優先**し、資源が商業的または政治的な動機による取り組みではなく、緊急の人道ニーズを満たすために確実に振り向けられるようにすること。



